

## 第 6 回浜松市未来デザイン会議 次第

日時：平成 26 年 7 月 26 日(土)午後 2 時 00 分から

場所：浜松市役所本館 8 階 全員協議会室

- 1 開会
- 2 策定スケジュールについて…【資料 2】
- 3 未来ビジョン(基本構想)パブリック・コメント案について…【資料 3】
- 4 第 1 次推進プラン(基本計画)パブリック・コメント案について…【資料 4】
- 5 閉会

## 第6回浜松市未来デザイン会議 配付資料一覧

資料 1・・・浜松市未来デザイン会議 委員名簿

資料 2・・・新・総合計画策定スケジュール

資料 3・・・浜松市総合計画基本構想 浜松市未来ビジョン(案)

資料 4・・・浜松市総合計画基本計画 浜松市未来ビジョン第1次推進プラン(案)

参考資料 1・・・計画体系図

参考資料 2・・・数値目標

・第5回浜松市未来デザイン会議 議事録

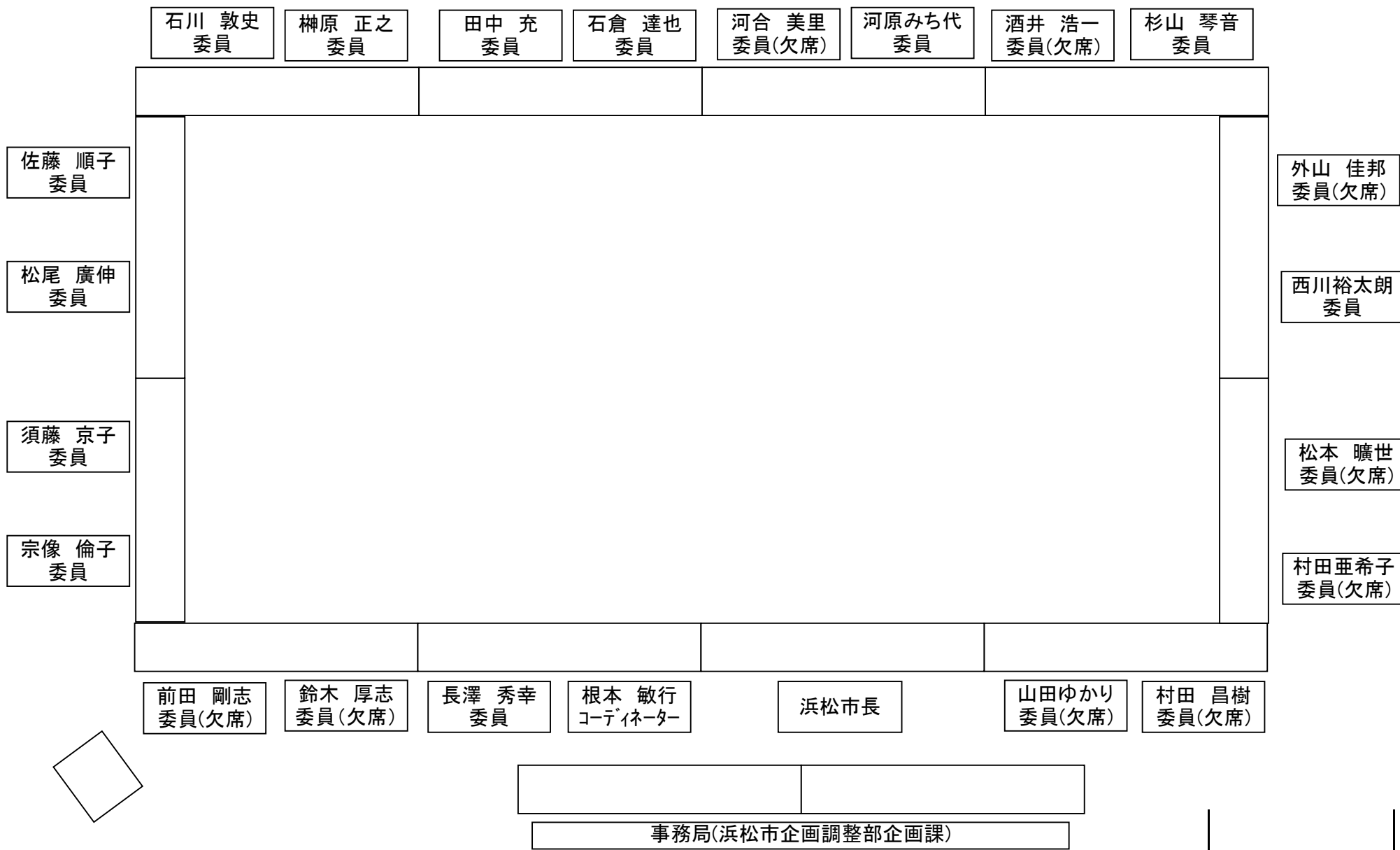
・第7回浜松市未来デザイン会議 開催案内

## 浜松市未来デザイン会議 委員名簿

(敬称略)

	氏 名	所 属 等
座長	鈴木 康友	浜松市長
有識者委員 コーディネーター	根本 敏行	静岡文化芸術大学 文化政策学部長
有識者委員	長澤 秀幸	浜松商工会議所 産業振興部経営支援課 係長
有識者委員	鈴木 厚志	京丸園株式会社 代表取締役
有識者委員	前田 剛志	TENKOMORI (天竜これからの森を考える会)
有識者委員	宗像 倫子	聖隷浜松病院 地域連携サービスセンター在宅連携担当 係長
有識者委員	須藤 京子	NPO法人浜松外国人子ども教育支援協会 理事長
有識者委員	松尾 廣伸	静岡大学大学院 工学研究科電気電子工学専攻 助教
有識者委員	佐藤 順子	聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 准教授
有識者委員	石川 敦史	なかよし第2保育園 園長
有識者委員	榊原 正之	遠州鉄道株式会社 運輸営業部運輸営業課 課長
有識者委員	田中 充	浜松市自治会連合会 副会長
公募委員	石倉 達也	静岡文化芸術大学 学生
公募委員	河合 美里	浜松学院大学 学生
公募委員	河原みち代	みらいネット浜松 代表
公募委員	酒井 浩一	浜松ホトニクス株式会社 開発本部
公募委員	杉山 琴音	静岡文化芸術大学 学生
公募委員	外山 佳邦	株式会社55634 代表取締役
公募委員	西川裕太郎	会社員
公募委員	松本 曠世	静岡大学 工学部 非常勤講師
公募委員	村田亜希子	会社員
公募委員	村田 昌樹	OMソーラー株式会社
公募委員	山田ゆかり	静岡大学 学生

浜松市未来デザイン会議 座席表



【平成 26 年度】新・総合計画策定スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
議会		<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別委員会(7)</li> <li>・基本構想について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別委員会(4)</li> <li>・第5回策定委員会を受けた議論</li> <li>・基本構想(案)</li> <li>・基本計画(案)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別委員会(12)</li> <li>・第6回策定委員会を受けた議論</li> <li>・パブリック・コメント案</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>●特別委員会</li> <li>・第7回策定委員会を受けた議論</li> <li>・最終確認</li> </ul>	●議案審議	●議決			
未来デザイン会議		<ul style="list-style-type: none"> <li>●第5回(24)</li> <li>・基本構想</li> <li>・基本計画(案)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(意見交換会)(17)</li> <li>・基本計画(案)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第6回(26)</li> <li>・パブリック・コメント案</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>●第7回(25)</li> <li>・最終確認</li> </ul>					
庁内ワーキング	<ul style="list-style-type: none"> <li>●第7回(24)</li> <li>・基本計画(案)について</li> </ul>	(策定委員会傍聴)		<ul style="list-style-type: none"> <li>●第8回(1)</li> <li>・基本計画</li> </ul>	(策定委員会傍聴)		<ul style="list-style-type: none"> <li>●第9回</li> <li>・最終確認</li> </ul>	(策定委員会傍聴)				
基礎調査					<ul style="list-style-type: none"> <li>◎パブリック・コメント実施(14~9/12)</li> <li>◎区協議会・諮問</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>◎パブリック・コメント結果公表</li> <li>◎基本構想案確定</li> <li>◎基本計画案確定</li> </ul>			◎印刷、校正		◎関係者送付
											◎区協議会・最終報告	

【平成 25 年度】新・総合計画策定スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
議会		●特別委員会(31) ・策定方針 ・人口推計結果報告	●特別委員会(14) ・策定方針 ・人口推計結果報告		●特別委員会(23) ・策定委員の確認 ・市民インタビュー中間報告		●特別委員会(8) ・第1回策定委員会を受けた議論	●特別委員会(13) ・第2回策定委員会を受けた議論  ◎特別委員会への意見照会(20)			●特別委員会(4) ・第3回策定委員会を受けた議論 ・基本構想(案)  ◎特別委員会への意見照会	●特別委員会(24) ・第4回策定委員会を受けた議論 ・基本構想(案)
未来デザイン会議		(公募開始) ・広報はままつ ・HP ・大学等に依頼 (5月31日㍻)	(公募委員審査) ・書類審査	(公募委員審査) ・面接審査	(有識者委員調整)	●第1回(29) ・策定方針 ・人口推計結果報告 ・未来の理想への思い	(宿題など) ・未来の理想の姿のイメージ検討	●第2回(2) ・未来の理想の姿 ・市民インタビュー結果 ・議会からの意見 ・基本構想について  (意見交換会)(28) ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)	(意見交換会)(16) ・市民インタビュー、議会の意見反映 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)  ●第3回(26) ・市民意識調査結果 ・議会からの意見 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)	(意見交換会)(14) ・市民インタビュー、議会の意見反映 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)  ●第3回(26) ・市民意識調査結果 ・議会からの意見 ・未来の理想の姿 ・基本構想(案)	(宿題など) ・基本構想(案)の修正意見	●第4回(15) ・議会からの意見 ・市民意識調査結果 ・基本構想(案) ・基本計画について ・来年度について
庁内ワーキング	●第1回(25) ・策定方針 ・市民インタビュー ・策定委員会		●第2回(3) ・市民インタビュー中間報告 ・個別計画との整合について			(策定委員会傍聴)	●第3回(10) ・策定委員会の意見確認 ・市民インタビュー結果 ・基本構想について ・基本計画準備 ・政策レポート作成	(策定委員会傍聴)  ●第4回(12) ・策定委員会の意見確認 ・基本構想について ・基本計画準備  (意見交換会参加)	(意見交換会参加)  ●第5回(20) ・基本構想(素案)確認 ・政策検討 ・基本計画準備	(政策レポート修正)  (策定委員会傍聴)		●第6回(7) ・基本計画について ・政策レポートまとめ  (策定委員会傍聴)
基礎調査	◎人口推計確定	◎市民インタビュー ・名簿作成 ・対象者交渉	◎市民インタビュー開始 ◎市民意識調査準備	(市民インタビュー) ◎市民意識調査委託		◎市民意識調査開始 ・ビッグデータの活用 ・市民の声システムの活用 ・市民インタビューの活用				◎市民意識調査 ・中間報告書作成		◎市民意識調査 ・完了 ・最終報告書

浜松市総合計画 基本構想

# 浜松市未来ビジョン

(案)

## 目 次

---

都市の将来像	1
市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』 ・技術も文化も国際色豊かなクリエイティブシティ ・小さな歯車が重なって大きな‘こと’を動かす ・新しさを生む伝統を未来へつなぐ	…[創造都市] …[市民協働] …[ひとつづくり]
1 ダースの未来（理想の姿）	3
01 つくる【創る】	…[産業・文化]
・‘ものづくり’と‘文化’で感動 ・‘うまい’で感動 ・他にはない‘ウリ’で感動	
02 たかめる【高める】	…[農林水産業]
・[大地の恵み]×[ものづくり産業]×[ICT] ・[森の恵み]×[デザイン]×[循環] ・[海や川の恵み]×[ブランド]×[高い]	
03 いかす【活かす】	…[エネルギー]
・地の利を活かしたエネルギー ・無駄を省いたエネルギー ・自ら生み出し、賢く使うエネルギー	
04 めぐらす【巡らす】	…[環境]
・豊かな自然と共存する暮らし ・世界が羨望する豊富な水資源 ・1人当たりのごみ排出量は減少	
05 つなぐ【繋ぐ】	…[多様性]
・「まちなか」は、創造都市・浜松の顔 ・ほどよい田舎暮らしができる「中山間地域」	
06 みとめあう【認め合う】	…[多文化共生]
・多文化共生が国際的な人財をつくる ・心の国境を感じさせない都市	
07 ささえあう【支え合う】	…[安全・安心]
・支え合いがあるから安心 ・つながりがあるから安心 ・充実した医療体制だから安心	
08 はぐくむ【育む】	…[子育て・教育]
・子育ての達成感を地域でシェア ・地域の見守りで出生率は上向き ・世界に誇る浜松育ち	
09 みのる【実る】	…[老い方]
・自分らしく自立したカッコいい老い方 ・いつまでも快適で質の高い生活を ・長寿が喜ばれる世の中へ	
10 はたらく【働く】	…[働き方]
・働くことにチャレンジ ・働くことをサポート ・働きやすい環境を整備	
11 かえる【変える】	…[住まい方]
・住まい方を変える ・居住エリアを変える ・乗り方を変える ・公共施設を変える	
12 むすぶ【結ぶ】	…[情報社会]
・働き方に ICT ・学び方に ICT ・暮らしに ICT ・遊びに ICT	



## 市民協働で築く

# 『未来へかがやく創造都市・浜松』

未来の浜松をつくるのは、私たち市民です。

私たちは、2045年を見据えて、「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」を「都市の将来像」に掲げます。

私たちは、世界に誇る技術と文化を有する都市を受け継ぎました。県庁所在地でもなく、大都市近郊でもない一つの‘まち’が、ものづくりを中心に自立的な発展を遂げ、政令指定都市へと移行できたのは、先人の高い創造性とたゆみない努力、何事にも果敢に挑戦する市民意識のたまものです。

私たちは、このすばらしい都市と精神を次代に引き継ぐため、長期的な展望に立って、課題を認識した上で、希望に満ちた未来を創造します。

以下に、30年後（1世代先）の理想の姿を示し、「浜松市未来ビジョン」とします。

### ——技術も文化も国際色豊かなクリエイティブシティ【創造都市】——

浜松はクリエイティブシティとして世界に認められています。地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、新しい価値や文化、産業が次々と創出され、私たちの暮らしの質を高めています。

産業面では、先人たちの‘やらまいか精神’が受け継がれ、新しいものを創り、新しいことに挑戦しています。多種多様な企業が次々と生まれ、イノベーションの連鎖が起きています。ベンチャー企業などのスモールビジネスも好調で、建築や商工業デザインのクリエイターが活発に行動しています。

玄関口となる‘まちなか’では、洗練された文化が感じられ、多くの人々に心地よさを提供しています。屋外のコンサートによってメロディが響き渡り、駅前広場などの公共空間では、芸術性の高い絵画・オブジェなどを見て楽しむことができます。音楽を中心に、創造性豊かな人財の育成が行われており、子どもころから芸術に触れることによって浜松から巣立った音楽家・文化人が世界を舞台に活躍しています。アクトシティで開かれるクラシックやジャズなど様々なジャンルの演奏会、中山間地域に受け継がれる伝統芸能は私たちに感動を与えてくれます。広大な市域に広がる多様な文化が相互につながり、歴史・伝統を脈々と引き継いでいます。とりわけ、浜松国際ピアノコンクールは、権威ある音楽イベントとして全世界に認められ、「音楽の都・浜松」を象徴する存在となっています。

物心両面で暮らしの豊かさが高まる中、多くの外国人もまた幸せに暮らしています。日本人市民と外国人市民がお互いの文化や習慣の違いを認め合い、共に生きるまちづくりを

進めています。日本一外国人が暮らしやすい都市という評価を得て、情報や資金が世界中から集まるため、新しい価値が生まれています。さらに、質の高い教育を受けた子どもたちは、世界を舞台に活躍しており、クリエイティブシティの国際色を高める重要な人財になっています。

#### ———小さな歯車が重なって大きな‘こと’を動かす【市民協働】———

浜松を創造する人財は、老若男女すべての市民です。日々の生活を送る上で、対等な立場で支え合い、市民主体によるまちづくりを進めています。また、企業は、地域社会における責任を理解し、社会貢献活動に取り組み、NPO 法人をはじめとした市民活動団体も、経済的に自立して活動しています。こうした多様な市民協働の担い手は、お互いに顔を合わせ、時には活発な意見交換を行い、時には笑い合いながら信頼関係を強めています。

浜松まつりや地域の祭り、伝統芸能は、歴史ある大切な文化として次世代に引き継がれています。年齢や職業、国籍が異なる人同士が仲間になり、地域コミュニティの活動を通して、地域の活性化に貢献しています。

生活基盤については、居住エリアの集約が徐々に進行し、公共インフラの規模が縮小され、将来への負担も抑えられています。ライフステージに応じて、都市部から中山間地域まで最適な場所を選択し、日々の暮らしを楽しんでいます。

こうしたまちづくりは、移動や消費にかかる地球環境への負荷も軽減しています。人が生きるために必要な水や自然環境について、将来にわたって守り続けることの大切さを子どもたちから理解し、大自然からの豊かな恵みを循環させるため、森林や河川、海、湖沼を守る取り組みも、協働で行われています。

#### ———新しさを生む伝統を未来へつなぐ【ひとづくり】———

浜松は人財が一番の誇りです。これは、子どもたちに対して、家庭・学校・地域で、いっぱい愛情を注ぎ、豊かな心と社会における規範意識、社会貢献への意欲をはぐくんでいるからです。自ら人間力を高めた人財が、誇りを持って浜松を支えています。

また、先人たちの技と知恵が伝承されています。産業面では、ものづくり産業の伝統の技が活かされ、優れた技能を持つ人財が、付加価値や生産性の高い産業を成長させています。こうした成長産業への人財や資金の集中とともに、若い世代に加えて、女性や高齢の世代の雇用を大幅に拡大させたことによって、地域経済は順調に推移しています。さらに市民活動でも、長年地域で生きてきた先輩から多くの知恵を若い世代が受け継ぎながら、浜松をより良くしています。

浜松には、都市部から中山間地域まで、全国に類を見ない多様性があります。こうした多様性を活かして、‘ヒト’を育て、‘モノ’をつくり、‘コト’（文化）を創造することで消費活動を活発化させています。‘ヒト’‘モノ’‘コト’を循環させることによって、新しい価値を生み出す伝統が将来につながっています。

**以下に、浜松の理想の姿を構成する「1 ダースの未来」を描きました。私たち浜松市民は、希望に満ちた未来に向けて挑戦します。**

## つくる【創る】

### 「見たこともない」感動をつくる。

#### —— ‘ものづくり’ と ‘文化’ で感動 ——

浜松は、発展し続ける都市です。機能からデザイン、サービス、また、観光や文化芸術に至るまで「見たこともない」と驚かせる‘モノ’や‘コト’があり、私たちの生活の一部にさえも人を惹きつける魅力が備わっています。

ものづくり分野では、技術研究へのひたむきな情熱と新しいものに挑むチャレンジ精神が「オンリーワン技術」を生み、脈々と受け継がれながら常に革新され、新たな産業の糧となっています。アイデアを実現するために技術力を高め、技術力が高まることで新しいアイデアが生まれるといった連鎖が起きています。こうして高い技術力で不可能を可能にする浜松発のイノベーションが海外にも広がり、新しい市場も開拓され、世界経済を支えています。

文化芸術分野でも、新鋭のミュージシャンやアーティスト、クリエイターが創作活動を繰り広げ、私たちに感動を与えています。また、音楽を中心とした多様な文化が新たな価値を生み出し、クリエイティブ産業として成長を遂げています。

浜松で認められることが、世界で認められる近道です。世界からたくさんの起業家や技術者、アーティストやクリエイターが集まり、私たちが、オール浜松で彼らのチャレンジ精神を後押ししています。

#### —— ‘うまい’ で感動 ——

世界からの来訪者が多いため、商業にもビジネスチャンスが生まれています。浜松産の農林水産物は、安全とおいしさで勝負し、ここでしか手に入らない逸品を取りそろえた店舗が軒を連ねています。腕の立つ著名な料理人も多く、世界の食通が一度は訪れたい店としてあげる飲食店も店を構えています。浜松産を食べたいという、訪れる人の思いを実現することで、満足度が高まり、家族や友人を連れて再び訪れています。もちろん、私たちもリピーターです。店舗同士も競い合い、時には協力して、あたたかいおもてなしが来店客を満足させています。

#### —— 他にはない ‘ウリ’ で感動 ——

大自然の恵みを体感できる中山間地域では、農作物の収穫、蕎麦打ち、森林の枝払いなどをはじめとした体験型の観光が人気です。首都圏などからの観光客も増え、顔の見えるあたたかい結びつきが居心地の良さにつながり、体験者には、「もうひとつのじいじ、ばあばんち」として親しまれています。多くのリピーターが集まり、中には移住した人も見られます。

このほか、地域ごとの伝統行事、浜名湖や遠州灘におけるマリンスポーツ、外国人市民が営む店舗などが‘ウリ’です。私たちも、休みの日には、市内で余暇を楽しみます。

他にはない‘ウリ’を活かしたトップレベルの発信力で多くの人を呼び込んでいます。

## たかめる【高める】

# 自然の恵み×浜松スパイス＝付加価値∞。

### ——[大地の恵み]×[ものづくり産業]×[ICT]——

浜松の農林水産業は、三方原を中心に広がる肥沃な台地、浜名湖や遠州灘の水産資源、北遠地域に広がる森林など、多様な自然環境を最大限に活用し、特色ある産品が豊富に存在し、全国的にも高い産出額を誇っています。また、経営感覚を身につけた事業者が、製造業や観光、医療、福祉などとの連携により、植物工場の設置や新しいサービスへの転換、光技術などの応用を進めています。

農業分野では、大規模農家から小規模農家まで、バランス良く発展しています。効率性を重視した生産工程で安価な外国産品と対等に勝負することもあれば、手間を惜しまず、世界中の高級レストランから注文が入る高品質な農産物を生産することもあります。成功の背景には、まちなかに住む人でも、サラリーマンであっても、農業を学ぶ環境が整えられたことが挙げられます。これまでの「食べる＝消費する」だけの立場から、多くの市民が「つくる＝生産する」の視点を有することに加え、ICT分野の技術士やマーケティングを行うデータサイエンティストなどの専門家が農業に関心を持ち、経営に関わったり、実際に畑を耕したりすることで、健康や福祉などの分野へと結びつけています。

### ——[森の恵み]×[デザイン]×[循環]——

林業分野では、植林、伐採の計画的なサイクルのもと、効率よく材木を出荷する体制が整い、「Tenryu-zai」は世界に通用するブランドとなっています。地元のクリエイターとの結びつきから、デザイン性の高い家具や玩具などに加工され、全国に広く流通することで6次産業化も進んでいます。未利用間伐材もバイオマスの定着により、燃料として余すところなく利用されており、環境保全を兼ねながら収益をあげるサイクルは、全国のモデルとなっています。また、多くの建物には「Tenryu-zai」が使われています。

子どもころから森林へ足を運ぶことによって、山を身近に感じ、「命の源である水・水の源である山」としての価値に多くの人気が付きました。この結果、生活を守る林業を誇りある職業と感じる人が増え、中山間地域に移住する人も増加しています。

### ——[海や川の恵み]×[ブランド]×[商い]——

水産業分野では、海や川、湖での資源を守り育てる漁業が安定的な産業として定着し、船具の改良や水産加工業、流通業の発展とともに、私たちの食卓に安価でおいしい食材を提供しています。また、漁獲の安定により、ウナギやトラフグ、クルマエビ、ノコギリガザミといった特色ある水産資源は、地元の料理店では産地ならではの看板メニューとして人気を呼び、浜松ブランドは高級料理店からも注文が絶えない食材になっています。

さらに、魚介の孵化や育成技術の向上は、商業的な栽培漁業や養殖業を活性化しているほか、市民が参加する放流活動など水辺の環境を自ら保全する取り組みを充実させています。資源豊かな川辺でアユ釣りなどのレジャーを楽しむ人や、浜名湖でアサリやハマグリ、潮干狩りなどのレジャーに訪れる観光客の増加が地域の賑わいを創出しています。

# いかす【活かす】

## 日当たり良好、未来に無駄なし。

### ———地の利を活かしたエネルギー———

浜松は、地の利を最大限に活用した「再生可能エネルギー」の導入が進んでいます。

日照時間は全国トップクラス。ほとんどの住宅や工場、公共施設などには、太陽光をエネルギーに変える屋根や壁面が備わっています。さらに、ものづくり産業の技術力によって、研究開発が継続的に行われ、太陽光発電のエネルギー効率が大幅に向上するなど、再生可能エネルギーに関する技術は大幅に進歩しています。

冷たい季節風でしかなかった遠州のからっ風も、今では、風力発電設備で電気に変換され、快適な住まいを提供してくれています。

豊富なバイオマス資源は、浜松の地域振興にも大きく寄与しています。中山間地域の林業に活気を取り戻す一因となった木質バイオマス発電に加え、私たちから排出された生ごみをエネルギーに変えるバイオガス発電も稼働しています。

こうした取り組みにより、再生可能エネルギーによる市民1人当たりの発電量が日本一になるとともに、多くの市民が普段使用する電力に再生可能エネルギーを選択しています。

また、再生可能エネルギーが普及する中で、地球環境への負荷が最小限に抑えられています。

### ———無駄を省いたエネルギー———

1人当たりのエネルギー使用量は、30年前と比較すると大幅に減少しています。

それは、住宅や工場、公共施設など、すべての施設が省エネルギーに取り組むとともに、エネルギーを創る技術だけでなく、エネルギーの効率性を高める技術も向上したからです。

私たちが暮らす住宅は、高气密・高断熱化やエネルギーを無駄なく賢く使う設備の標準装備など性能が向上し、省エネルギーに配慮されたものが一般的になっています。

### ———自ら生み出し、賢く使うエネルギー———

私たちのエネルギーに対する意識は大いに高まりました。

住宅や工場、公共施設などでは、必要なエネルギーは自分で創る、まさにエネルギーを自給自足しています。そして、使用を抑えながら、必要な分だけ、効率良く利用しています。

また、地域コミュニティ単位では、住宅や工場など、それぞれが創ったエネルギーの余剰分などを無駄なく賢く融通し合う社会システムが構築されています。

多種多様な「再生可能エネルギー」が安定供給され、市内のエネルギー全体に占める割合も徐々に拡大しています。これにより、災害など想定外の事態にもエネルギー供給が滞ることなく十分対応できる都市になっています。

## めぐらす【巡らす】

エコ (ecological) = エコ (economical)。

### ——豊かな自然環境と共存する暮らし——

山、海、川、湖といった豊かな自然環境に恵まれた浜松。その豊かさは、多種多様な生物をはぐくんできました。これは浜松の貴重な財産であり、“浜松らしさ”です。また、身近な自然を大切にする意識も高まり、きれいな水と空気の中で生活できるよう市民一人ひとりが心がけています。とりわけ、佐鳴湖をはじめとした身近な水辺では水質が格段に向上し、夏場には、子どもたちが水遊びを楽しんでいます。

環境教育も進み、「環境にやさしいことはおサイフにもやさしいこと」と、「自然環境を守ることは人が生きるため絶対的に必要なこと」をすべての市民が理解し、日々の生活の中で、自然環境と共存する方法を自ら考え、行動しています。また、こうした環境に配慮した取り組みを世界に提供することで、地球環境の保全に貢献しています。

### ——世界が羨望する豊富な水資源——

世界と比較して我が国は雨が多く、その中でも浜松の年間降雨量は全国的に見ても多いため、水資源が豊富です。また、市域の約70%が山林で、きれいで豊富な水を産み出す条件がそろっています。山を守ることが水を守ることであり、人間も守られています。川を通じて、上流は下流のことを考え、下流は上流のことを感謝する気持ちがはぐくまれています。私たちは、水の源である山や川を大切にし、水を浪費せず、汚れた水を適切に処理しています。下水道の処理施設もコンパクト化され、浄化された水の再利用も行われています。戦略物資と言われる石油の代替はありますが、水の代わりはありません。「水>油」。水は私たちの誇りです。

### ——1人当たりのごみ排出量は減少——

不要物がすべてごみとは限りません。私たちの生活に3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みが定着していて、1人当たりのごみ排出量は年々減少しています。また、高度な技術力を活かして、廃電子機器から再利用できるレアメタルの回収も先進的に取り組んでいます。このため、ごみ処理施設は徐々に廃止され、施設はコンパクト化されています。

これまで、化石燃料や鉱物など資源の枯渇が課題とされてきましたが、私たちの世代はそれを使い切っていません。技術革新と協働で、環境に配慮した取り組みを向上させたからです。

## つなぐ【繋ぐ】

### 「都会」と「田舎」。両方あって丁度良い。

——「まちなか」は、創造都市・浜松の顔——

「まちなか」は、創造都市・浜松の「顔」として栄えています。アクトシティ浜松周辺の歩道や壁面には、音響やビジュアルアートのデザインがあり、創造性豊かな文化を感じることができます。また、国際的な文化・スポーツのイベントが盛んに開催され、海外からも多くの人を訪れます。

まちなかの店舗も賑わっています。店舗同士が連携し、大規模店やネットショップと差別化することで、歩いてショッピングを楽しむエリアとして確立しており、「華やかさ」や「ワクワク感」を得ることができます。また、居住空間としても洗練されていて、多くの市民が移り住んでいます。

さらに、居住人口の拡大により公共、商業施設などの都市機能が集積し、店舗2階などの空きスペースは、ベンチャー企業の仕事場、アーティスト・デザイナーのアトリエとしても活用されています。文化、商業、居住、業務、歴史などが備わった「まちなか」は、多くの人で賑わいを見せています。

——ほどよい田舎暮らしができる「中山間地域」——

一方で、自然豊かな「中山間地域」は、命の源である水と緑を生み出す、欠かすことのできない地域であり、その価値と自然環境の大切さが認識されています。若者を中心に、地域を越えて、伝統文化を継承するサークルが立ち上がるなど、天竜川上流と下流の交流が活発化し、地域を担う若者も増えています。また、ひよんどり、おくない、田楽、歌舞伎など多彩な伝統芸能が、次世代へと脈々と引き継がれており、全国から熱い視線を集める地域となっています。これらの伝統芸能は、まちなかでも、イベントとして披露される回数が多く、観光資源としての役割を担っています。歴史的価値の高い伝統芸能は、私たち市民にとって大切な宝物です。

昔ながらの人付き合いが根付いた「中山間地域」では、豊かな自然と地域伝統が満喫できる暮らしを選択した様々な世代が流入し、新しい雇用も生まれています。「都会」と「田舎」が両方あって、緊密に結ばれている浜松。大都市圏からのアクセスも良く、幅広い年代が暮らしやすい生活スポットとなっています。

## みとめあう【認め合う】

### 似ていない。だから、うまくいく。

#### ———多文化共生が国際的な人財をつくる———

浜松は、外国人が多く居住する「外国人集住先進都市」であり、海外の文化と共生する術が身についています。このため、世界各国の人財も、安心して暮らす中で、それぞれの能力を発揮しています。日本人市民も外国人市民も浜松で育つ子どもたちは、質の高い教育により自らの希望に向かって、得意とする分野で成功を遂げています。

小中学校では、外国人の子どもに対しても、母国語による情報提供が行われています。コミュニケーション上の支援として、日本語や日本の生活習慣を習得する機会の提供、母国語の言語支援など、新しい外国人の受け入れ体制も充実しています。外国人の子どもたちは、日に日に文化や習慣の違いを理解し、日本人の子どもたちとも一緒になって学び、遊んでいます。一方、外国人のクラスメイトと共に成長した日本人の子どもたちは、外国人との付き合いや海外での生活を障壁に感じることはないため、全世界で活躍しており、浜松からインターナショナルな人財が輩出しています。こうした浜松出身者の活躍は、海外の都市から評価され、我が国のイメージ向上にも貢献しています。

#### ———心の国境を感じさせない都市———

地域コミュニティの場では、日本人市民と外国人市民が一緒になって、自治会活動をはじめ、地域のお祭りや清掃ボランティアなどの様々な活動に参加しています。また、海外の文化を取り入れた新しいイベントなどが生まれています。お互いの文化を教え合う教室なども共同運営されることにより、相互の習慣の違いを受け入れる優しさや、外国人市民が日本の決まりを尊重する考え方が定着し、言語や文化の違いに起因するトラブルはありません。

また、ブラジル総領事館をはじめ、ビザの発行の相談ができる窓口など、様々な国籍に対応できるサポートが充実しており、多くの外国人市民が、住みやすさを実感しています。国境を感じさせない都市として、あらゆる市民が創造性を発揮できる社会をつくり上げています。



## ささえあう【支え合う】

### 安心で選ばれる。安全だから選ばれる。

#### ——支え合いがあるから安心——

地域社会全体で支え合い、だれもが穏やかに安心して生活を送ることができるから、浜松は住みやすいまちとして選ばれています。学校や診療所、薬局、店舗などが、防災や防犯の相談窓口となっており、だれもが気軽に利用することができます。

また、地域のコミュニティや企業などが連携した地域の見守り体制などにより安全・安心なまちづくりに取り組んでいます。

防災や防犯に関する市民の意識も高く、家庭・学校・地域コミュニティで質の高い防災訓練などが実施されています。すべての市民が「自分の身は自分で守る」意識を共有し、大規模災害に備えています。また、市民の安全と安心を守る遠州灘海岸の防潮堤は、ジョギングやウォーキングにも活用され、多くの市民に愛されています。

安全と安心を感じる中で、笑顔が生まれている。その理由は、地域における支え合いなのです。

#### ——つながりがあるから安心——

デイサービスなどの福祉施設では、65歳以上の市民がボランティアとして元気に活躍し、利用者の話し相手や清掃活動をサポートしています。介護施設は、保育所などと併設されていて、子どもたちとの交流によって、いつも笑顔が絶えません。在宅での介護や、障がいがあり生活支援を必要とする人には、地域の資源が大いに活用されています。

行政やボランティアなどの支援体制によって、住みなれた地域で安心して暮らし続けることができ、介護する家族に対しても、生活の質を向上させています。

#### ——充実した医療体制だから安心——

医療体制は、我が国の手本となっています。受け入れ患者の症状によって、救急医療の役割を分担しているほか、診療所で初期診療を行い、専門的な検査・手術や入院を要するものは総合病院で対応するなど、医療機関同士の連携が進んでいます。相互連携による質の高い医療の提供は、不測の事態であっても安心感があります。

また、病気にかからないための予防の重要性が認識されています。栄養・食生活、運動、休養などの視点から健康づくりに取り組みやすい環境が整備され、生活習慣病予防など健康に関心を持ち続ける意識が浸透しています。

# はぐくむ【育む】

## 子どもは将来を担う地域の宝。

### みんなで愛情を注ぐ。

#### ——子育ての達成感を地域でシェア——

浜松では、子育ての苦労も楽しみも地域でシェアしています。

子育てに関する悩みがあっても、近所に住む「じいじ」、「ばあば」に気軽に相談でき、子育てのノウハウを持つボランティアもサポートしてくれます。子育てに関する知識が世代間で伝承され、一人で悩み、抱え込むようなことはありません。また、地域主体の育児サークルが活発に活動しているほか、地元のお祭りやスポーツ、昔ながらの遊びを通して、地域ごとに特色のある子育て方法も生まれています。

#### ——地域の見守りで出生率は上向き——

勤め先では、育児休暇の取得は当たり前になっており、社会全体で子育てを重視した働き方を推進しています。このため、出産・育児を理由に仕事を辞める人は減り、女性の社会進出はさらに進みました。

浜松の子どもは、みんなで育てる。子どもは将来を担う地域の宝といった意識が一人ひとりに浸透し、保護者や地域が一体となって愛情を注いでいます。このため、子どもたちは、「自分は大切な存在である」と感じ、人間力や社会性など、社会に出る上での必要なスキルを身につけています。

不安なく子育てできる浜松では、合計特殊出生率が徐々に高まっています。

#### ——世界に誇る浜松育ち——

学校では、すべての子どもたちが笑顔で平等に学ぶことができます。基礎学力を身につけながら、子ども同士も互いの個性を認め合って、楽しく学校生活を送っています。また、子どもたちは自分に合った学びを選択することもできます。理数や語学、芸術、スポーツなどの素質を早くから見つけ、子どもたちの才能を伸ばす教育も盛んに行われています。

さらに、学力向上だけでなく、生きる力をはぐくむことに力を入れています。コミュニケーション能力や表現力などの人間力の向上が図られ、自立した人間の形成に役立っています。

家庭、地域、企業、学校が連携して一人ひとりの子どもに関わり、子どもたちは地域社会の一員としてはぐくまれています。浜松の子どもたちは、自分のため、地域のため、国のため、そして世界のため、「世界に誇る浜松育ち」として個性を伸ばしています。

子育てに不安はありません。これは、地域のみんで子どもたちに愛情を注ぎ、子育て世代を見守ってきたからです。

## みのる【実る】

# 若きに引き継ぐ、カッコいい老い方。

### ——自分らしく自立したカッコいい老い方——

市民の5人に2人が65歳以上。とはいえ、もはや「高齢者」とは呼ばれていません。浜松の健康寿命は、生活習慣病の予防や医療の発達により更に向上し、65歳以上の市民が活躍できる時間は20年以上もあります。定年制度を撤廃する企業も増え、働き続けながら、経済的に自立しています。その中で、若い世代に学術や技術、社会で生きる術を伝承し、将来を後世に託しています。まちなかに生活に便利な住宅が用意される一方で、住まいを自然豊かな中山間地域に移し、晴耕雨読の毎日を楽しむ人もいて、住みたいところで暮らし、健康で自分らしく生きる「カッコいい老い方」が一般的です。

人口の約4割を占めますから、世の中の中心的存在になっています。買い物や旅行など、消費を活発化させる重要な対象であり、企業でも、高齢の世代をターゲットとした商品開発に余念がありません。

### ——いつまでも快適で質の高い生活を——

地域では、予防に重点を置いた生活指導を充実させています。たとえ病気になったとしても、地域社会に見守られている安心感があり、自らの症状を受け入れ、望みを持ちながら生活の質を高める努力をしています。また、食材の調達・食事の用意を支援する技術が確立するとともに、歩行や普段の行動を補助するロボットスーツも市販されており、自分らしい生活を送ることができます。こうした技術は、世界中で好評を博し、海外に輸出されています。

ユニバーサルデザインへの理解が増してきました。施設や道路などの環境整備や生活用品などにユニバーサルデザインが取り入れられ、生活支援などのサービス情報をワンストップで提供するコーディネート機関も地域にあり、安心して快適に暮らすことができます。

「心のユニバーサルデザイン」が一人ひとりに浸透し、地域で暮らすすべての人が、互いの個性や立場を理解し尊重して、助け合いながら暮らしています。

### ——長寿が喜ばれる世の中へ——

また、一人暮らし世帯の数は、増加傾向にあります。家族と近居したり、知り合いと同居したりする人が増えています。地域コミュニティの場の中で互いに関わりを持ちながら生活しているため、大規模な災害が起こったとしても、孤立してしまうようなことはありません。

いくつになっても、ボランティアなどの社会貢献をはじめ、スポーツや絵画、資格の取得などに挑戦し、適度な緊張感を持って輝き続けています。だれもが好きなことに夢中です。人生の達人は、企業にも地域にも必要とされ、若い世代に技と知恵を授けています。

# はたらく【働く】

## 「やってみたい」を自由にチャレンジ。

### ——働くことにチャレンジ——

働きたい人が働きたい仕事に自由にチャレンジできる。それは、国籍、性別、年齢、障害の有無などには関係なく、すべての人に平等です。

働くことによって、ほとんどの人が生活の糧を得ていますが、たとえ無償の仕事であったとしても、生きている実感を味わい、社会の中で自分の居場所を見つけることができた人も少なくありません。また、会社勤めが主流ではなくなり、自らの目標を実現するため、新たに起業する人も増えています。

### ——働くことをサポート——

一方で、企業では、労働者の生活環境やライフスタイルに合わせて、仕事量の増減を自由に行うことができます。求職の際は、身近なところに就業のためのコンシェルジュ的な役割を果たす人がおり、暮らしに合わせた満足度の高い仕事を供給できるように配慮されています。さらに、そこでは、就業のコーディネートだけでなく、様々な事情を抱え、働きたくても働けない人のサポートも行っています。また、転職についても、積極的にチャレンジできる環境が整備されていて、自分のやりたい仕事や適性にあった仕事を選択することができます。

### ——働きやすい環境を整備——

雇用の掘り起こしや働きやすい環境が整備され、高齢世代、女性、障がいのある人、外国人の働く場が拡大するとともに、定年の廃止や延長によって人口減少、少子高齢化による労働力不足の懸念は、解消されています。また、託児施設の充実などにより、子育て世代が働くことを社会で支えています。企業では、育児休暇制度を充実させ、休暇後の職場復帰も積極的に推進しており、子育てのために仕事を辞める必要はありません。短時間労働や在宅勤務が可能となり、ワーク・ライフ・バランスの充実が図られ、子育てや介護、趣味、地域貢献、ボランティア活動などに精を出す人が増えています。また、NPO 法人などの非営利組織も魅力ある就労先の一つとなっています。

# かえる【変える】

## ま ち 都市だって、スリムになりたい。

### ——住まい方を変える——

浜松では、土地や家屋が一生の財産であるとした考え方が見直されています。ライフステージに応じて、都市部から中山間地域まで最適な場所を選択し、生活を楽しんでいます。かつての空き家が大いに活用され、ユニバーサルデザインや省エネルギーに配慮した住宅として、リフォームされています。また、子どもの独立を機に戸建て住宅を売りに出し、コンパクトサイズのマンションへ転居する世帯も増えています。一方で、子育て世代が、売りに出された戸建て住宅に移り住むといったサイクルが形成されています。これにより、同一世代が一定の地域に集まることが少なくなり、地域で世代を越えた交流が進んでいます。

### ——居住エリアを変える——

拡大していた居住地は地域の拠点に集約傾向にあり、人口密度の高い地域は一層高まり、居住地域と農業や工業を営む生産する地域とのメリハリが明確についています。これにより、土地や家屋の流動化が進み、空き家や空き地は減少し、住宅団地などの一団の開発はほとんどありません。一方、生産する地域では農地の集約や企業の集積が進むなど、生産性が高まっています。

### ——乗り方を変える——

移動手段は、電車やバスなどに加え、地域や企業などが所有する乗り物をシェアし、乗り合いながら利用しているため、渋滞は緩和されています。個人で自家用車を持ち、運転を楽しむ方もいますが、安全性能が高く、環境への負荷が少ない乗り物がほとんどです。市街地での移動手段は、徒歩を中心としていますが、エコな一人用の乗り物もあります。道路は、歩道と車道が明確に区分され、交通事故は減少しています。また、居住地の集約によって、不要となった道路は廃止され、他の用途に活用されています。

### ——公共施設を変える——

公共施設についても考え方が見直されました。点在していた公共施設の機能を1つの建物に集約したり、図書館だった施設に民間事業者が運営する映画館やカフェを併設したり、多様な機能を併せ持つ施設が整備されています。また、美術館が、休日には結婚式場、夜にはディナー会場になるなど、様々な用途として柔軟に活用されています。民間事業者やNPO法人などが運営母体となり、使い勝手の良い施設として、質の高いサービスを提供しています。

## むすぶ【結ぶ】

# もはや遠距離は、妨げではない。

### ——働き方に ICT——

ICT の向上は目覚しく、私たちの生活の細部に浸透しています。インターネット端末は、使いやすい機能性を備え、より身近なものとなり、だれもが賢く利用しています。

働き方が大きく変わりました。Web 会議などが主流になっており、仕事のために移動することは、月に数回程度。それ以外は、ほとんど自室で対応しています。また、商店や小さな工場などは、インターネットを利用して世界を相手にビジネスを広げています。こうした生活は場所を選ばないことから、中山間地域の空き家をリノベーションしてオフィス兼住宅とするなど、自分の居場所を選択できるようになっています。勤務時間の概念がなくなり、自分の時間を活用できています。

### ——学び方に ICT——

児童・生徒はそれぞれインターネット端末を所有しています。電子黒板の活用により、授業の様子をインターネット端末で復習することもできます。また、緊急連絡の受信や位置情報の配信にも利用され、防犯対策も万全です。

ICT の普及とともに、情報倫理の浸透とセキュリティの強化が進んでいます。学校をはじめ、社会においても、情報を正しく評価・識別するメディアリテラシーを教えています。また、溢れる情報を必要な時に正しく使うため、メディアに依存しすぎないアウトメディアに対する考え方も身につけるよう指導しています。

### ——暮らしに ICT——

浜松が抱える膨大なインフラの維持に関しては、センサーにより遠隔管理する技術をいち早く取り入れているほか、市役所での手続きも電子化が進み、庁舎まで出向かなくてもインターネットでほとんど対応できます。また、医療に関しても、電子カルテによるデータ管理や遠隔診療、仮想内視鏡などの ICT 技術が日々向上しており、患者に対する利便性の向上や負担の軽減に役立っています。

### ——遊びに ICT——

観光面では、交流人口を拡大させるため、豊かな自然や貴重な文化資源などの浜松の魅力を世界に発信しています。また、観光スポットにも公衆無線 LAN が整備され、インターネット端末を快適に使うことができます。さらに、仮想現実を活用して、テーマに応じた観光情報を配信するアプリは無数に普及しており、海外の観光客にも分かりやすく情報発信しています。

私たちは、情報通信技術を賢く活用し、生活の豊かさにつなげています。





浜松市

## 浜松市未来ビジョン

---

発行：浜松市

編集：浜松市企画調整部企画課



浜松市総合計画 基本計画

# 浜松市未来ビジョン 第1次推進プラン

(案)

# 目次

---

1	未来ビジョン（基本構想）を受けて	1
2	都市経営の考え方	2
①	市民協働で高める地域力	2
②	未来まで続く持続可能なまち	3
③	未知の感動を生み出す創造都市	3
④	想定外にも対応できる自立・自律したまち	4
⑤	世界とツナグ・地域とツナグ	4
3	まちづくりの基本的な考え方	5
4	分野別計画	7
	分野別計画の構成	8
①	産業経済	9
②	子育て・教育	13
③	安全・安心・快適	17
④	環境・エネルギー	21
⑤	健康・福祉	25
⑥	文化・生涯学習	29
⑦	地方自治・都市経営	31
◆	政策体系	35

# 1 未来ビジョン（基本構想）を受けて

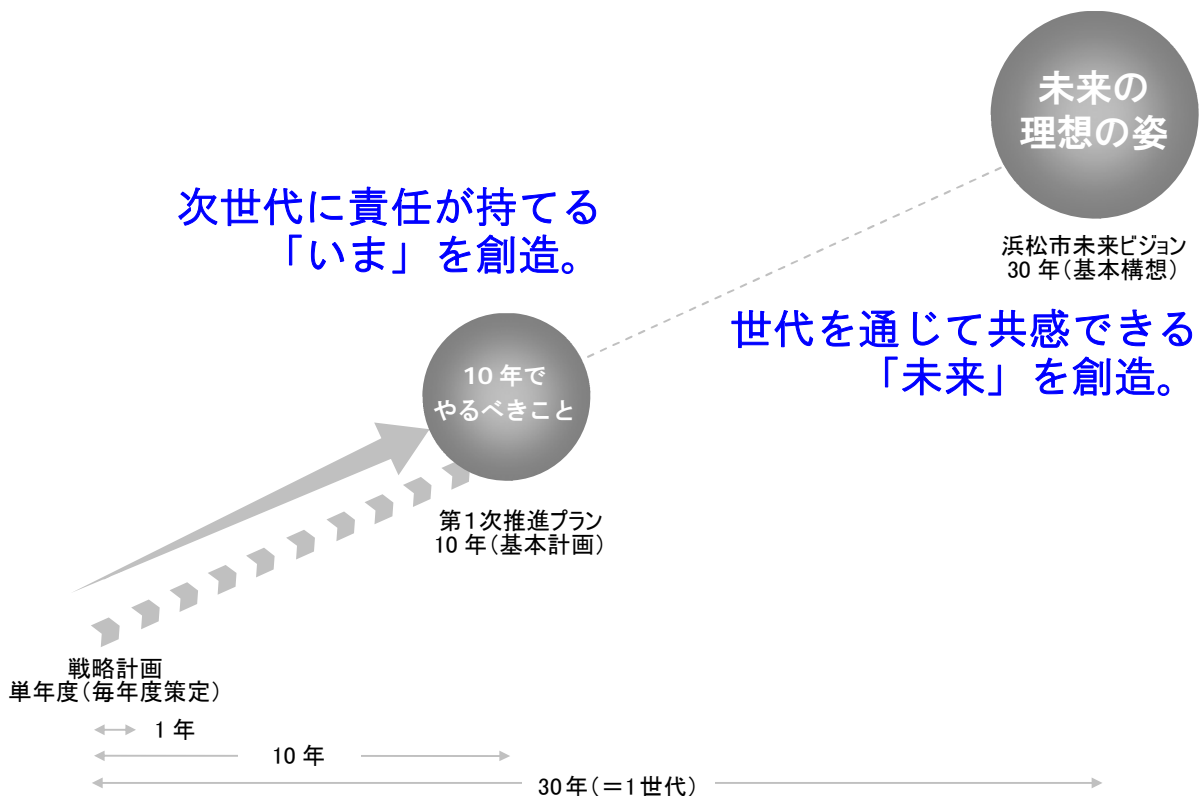
人口減少・超高齢社会など、未知の環境に立ち向かうため、新たな手法として、バックカスティング\*方式を取り入れました。

未来ビジョンでは、世代を通じて共感できる「未来」を創造するために、一世代(=30年)先を未来の理想の姿として、「都市の将来像」と「1ダースの未来」を定めました。

第1次推進プラン（基本計画）では、未来ビジョンの実現に向けて、長期的な展望に立ち、「今、行政は何を行うべきか」「今、市民にできることは何か」を考え、次世代に責任が持てる「いま」を創造し、平成27年度から平成36年度までの10年間の総合的な政策を定めています。

また、第1次推進プランに掲げた10年後の姿を達成するため、事業実施の核となる戦略計画を毎年度作成し、計画的な進捗管理を進めます。

将来にわたって、市民が幸せに暮らし、豊かさを実感できるように、新たな挑戦をスタートさせます。



\* バックカスティング：目標となる将来の理想の姿を想定し、その姿から現在を振り返り、今すべきことを定める考え方。

## 2 都市経営の考え方

市域を見渡せば、海、川、湖、山などの豊かな自然環境に恵まれ、沿岸部や都市部、中山間地域の多様性を有する「国土縮図型」の政令指定都市を実感することができます。地域の多様性は、本市の強みとして、特色のある産業や伝統文化などをはぐくんできました。

一方、広大な市域の中には、政令指定都市で最も長い道路延長や多くの公共施設が存在します。これらの維持更新のためには莫大な費用を必要とするなど、新たな課題も抱えています。

地域の持続的な発展のためには、行政資源や地域資源を効果的に組み合わせ、これらの課題の機先を制し、課題解決の先進都市を目指した都市経営が求められます。

このため、都市の将来像の実現に向け、すべての政策・事業を進める上での重要な考え方として、次の5項目を位置付けます。

### ① 市民協働で高める地域力

すべての市民が住み慣れた地域で充実した生活を続けるためには、行政だけでなく、市民、市民活動団体、企業などがまちづくりの主役として、各自の役割を果たすとともに、それぞれの主体が協働により、お互いを補い、支え合い、相乗効果を生み出していくことが不可欠です。

このため、行政情報の積極的な提供を行うとともに、情報の共有などによる各主体との協力・連携体制を築くことで互いの信頼関係を強化します。最終的には、行政が持つ権限や意思決定などの役割分担も視野に入れ、市民などが主体となって地域の課題を解決する地域力を高めていきます。

## ② 未来まで続く持続可能なまち

ヒト・モノ・カネ（地域経済）の最適な循環が持続可能な発展につながります。

ヒトの循環では、子どもや子育て世代への支援、ワーク・ライフ・バランス\*の推進、都市の魅力創出などにより、出生率の増加、年少・生産年齢人口の拡大を目指し、人口構成の最適化を図ります。

モノの循環では、ゴミの分別や廃電子機器からのレアメタル\*の回収など、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の取り組みを、生活面、産業面などあらゆる分野で進めます。また、市民生活や産業活動を支えるエネルギーを持続的・安定的に確保するため、恵まれた自然環境を活かした再生可能エネルギーの利用を推進します。

カネ（地域経済）の循環では、既存産業の高度化や経営革新、新産業の創出、ベンチャー企業の創業などの支援による雇用創出を推進します。また、新たなビジネスチャンスの獲得を目指した企業への海外展開支援などを進め、地域経済が潤う仕組みを構築します。

さらに、地域の課題を解決するため、ソーシャルビジネス\*やコミュニティビジネス\*を、NPO\*をはじめとした市民活動団体などが営む環境を整えます。

最適な循環を生み出すことで未来まで続く、持続可能なまちづくりを進めます。

## ③ 未知の感動を生み出す創造都市

何事にも積極果敢な進取の気風である「やらまいか精神」\*、異なる文化を受け入れる寛容な市民性が、多様性に富んだ人財をはぐくみ、世界的な「ものづくり」のまちとして、発展を遂げてきました。

本市の強みである「寛容性」や「ものづくり」の伝統を未来に引き継ぎ、市民や企業の創造的な活動により、産業の創出、地域の教育や福祉への貢献など、すべての分野で新たな価値が次々に生まれるまちづくりを進めます。

すべての市民が互いに創造性を刺激し合い、常に新しい取り組みにチャンレンジすることで、未知の感動を生みだす、創造都市\*・浜松の実現を目指します。

---

\* ワーク・ライフ・バランス：一人ひとりがそれぞれの希望に応じて、仕事とそれ以外のこと（家庭や地域活動など）のどちらも大切にすライフスタイルで、両方にやりがいや充実感を感じられる状態のこと。

\* レアメタル：産出量が少ない稀少金属のこと。

\* ソーシャルビジネス：社会的課題の解決を図るための取り組みを事業として展開するもの。

\* コミュニティビジネス：地域の住民を中心とした組織などが生活者の需要に対して、展開する事業で社会奉仕的な要素を持つ。

\* NPO：Non-Profit Organizarion（非営利組織）。市民が主体的に社会活動に取り組む非営利の民間組織。

\* やらまいか精神：遠州（浜松）地方の方言で「やってみよう」「やろうじゃないか」の意味を持ち、何事にも前向きに取り組む気性を表す。

\* 創造都市：地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、その活動が新しい価値や文化、産業の創出につながり、市民の暮らしの質や豊かさを高めていく都市。

## ④ 想定外にも対応できる自立・自律したまち

地震・津波の災害、感染症のまん延など、有事に対する備えを怠らないことで、想定外にも対応することができます。環境変化にしなやかに対応する、打たれ強い都市を目指し、安全・安心を実感できるまちづくりに取り組みます。

また、選択と集中による経営資源の有効活用など、自らを律する「自律」により、不断の行財政改革に取り組み、都市経営の基盤を強化することで、いかなる環境変化にも対応して、市民サービスの質と量を確保します。

さらに、道州制の導入をはじめ、地方の姿が大きく変わろうとしている中、地方自治のあるべき姿に向けて、自立した基礎自治体である“特別自治市<sup>\*</sup>”の実現を目指します。

## ⑤ 世界とツナグ・地域とツナグ

情報通信技術、交通機関の発達により、ヒト・モノ・カネ・情報の急速なボーダーレス化<sup>\*</sup>が進展しています。世界の都市との連携を強化し、本市の特徴や強みを活かした国際戦略を進めることで「Hamamatsu」の都市ブランドを高め、企業の海外展開、海外からの企業誘致、文化・芸術・産業などの融合による創造都市の実現などにより、世界の活力を地域に取り込みます。

国内では、政令指定都市や三遠南信地域内の各自治体との連携を強化し、防災、観光、産業などの広域的な課題に対応します。また、市内では、都市部と中山間地域との交流を促進して、地域内の活性化を図ります。

世界・地域をツナグことで、本市の強みである自然や産業、文化などの多様性を活かした取り組みを進めて、未来への架け橋を築きます。

---

<sup>\*</sup>ボーダーレス化：国籍や国境などが意味をなさないほど、国際的に広がっていること。

### 3 まちづくりの基本的な考え方

#### コンパクトでメリハリの効いたまちづくり

市民が居住するエリアを、公共交通の結節点や道路・鉄道の沿線に集約します。これらの居住エリアは、農業や工業などの産業を振興するエリアと、自然環境を保全するエリアとを明確に区分し、人口密度にメリハリをつけた拠点ネットワーク型都市構造を目指します。







人口密度を高めることにより、店舗や病院などの民間活力を誘発し、便利で快適なまちへと移り変わる好循環を生み出します。また、道路や上下水道などの公共インフラについても見直しを進め、人口規模に応じた最適化を図ります。

また、中山間地域においては、田舎暮らしを推進するとともに、交通ネットワークの強化によって都市部との交流を促進します。

『コンパクトでメリハリの効いたまちづくり』を基本的な考え方として、持続可能な最適化されたまちを市民とともに目指します。

「まち」を4つ（①都心部／②市街地／③郊外地／④中山間地域）に区分し、それぞれの「まち」に応じた将来の理想の姿（基本的な考え方）を示します。

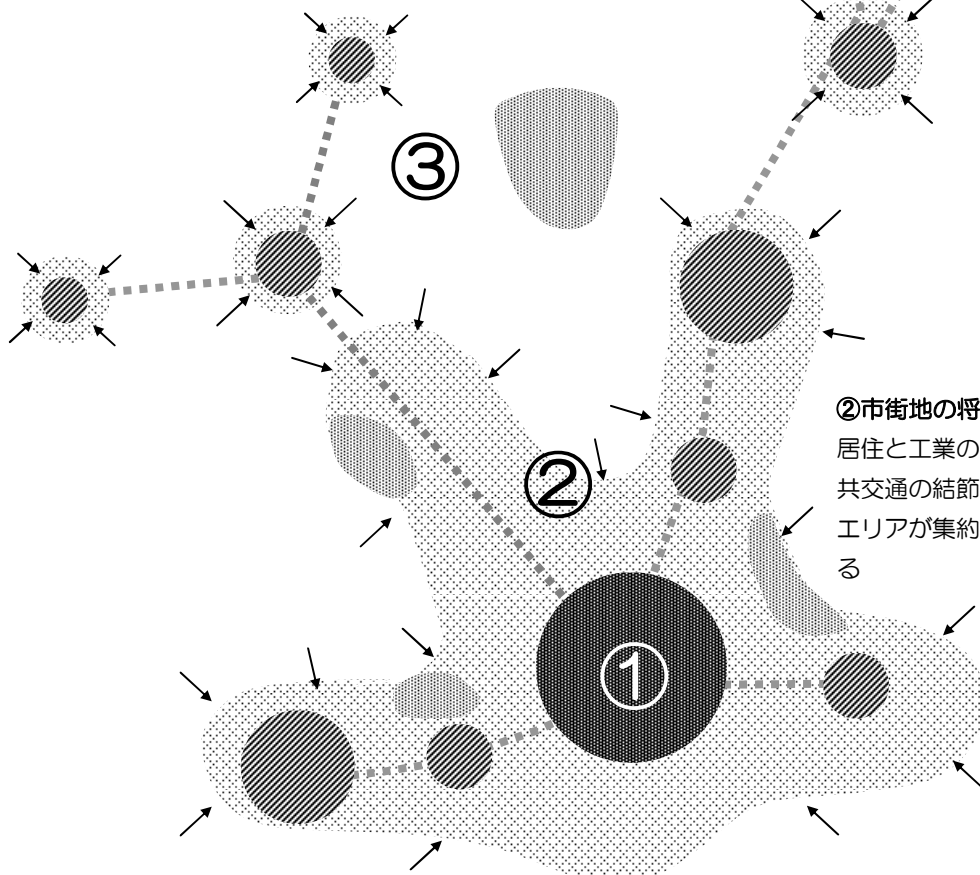
# イメージ図

凡 例	
	都心
	生活拠点など
	居住エリア
	工場用地など
	公共交通などのネットワーク
	集約イメージ

※ 市街地：都市的な土地利用が図られるところ  
 郊外地：低密度な土地利用が図られるところ

### ③郊外地の将来の理想の姿

農地の集約化などが進み、産業構造の変化に対応した農業と工業のバランスある土地利用がなされるとともに、既存集落のコミュニティが維持されている



### ④中山間地域の将来の理想の姿

自然環境が保全されるとともに、都市部との交流が盛んに行われ、各地域の中心地では、田舎暮らしが楽しめる

### ①都心部の将来の理想の姿

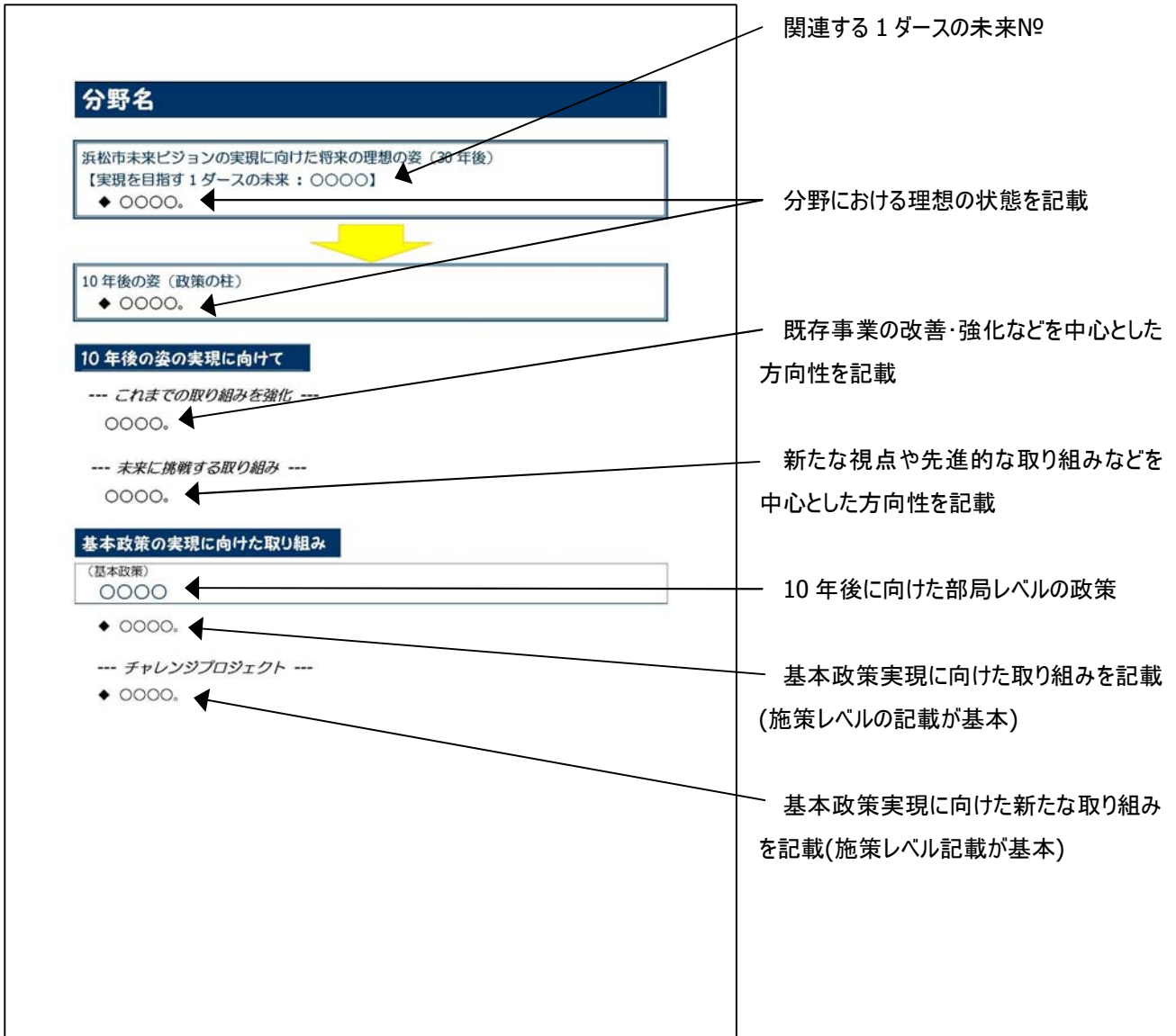
創造都市の玄関口として、商業、業務、文化の魅力が高まり、多くの人々が行き交い、多くの市民が居住する



## 4 分野別計画

- ①産業経済
- ②子育て・教育
- ③安全・安心・快適
- ④環境・エネルギー
- ⑤健康・福祉
- ⑥文化・生涯学習
- ⑦地方自治・都市経営

# 分野別計画の構成



## ①産業経済

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）

【実現を目指す1ダースの未来：01、02、10、12】

- ◆ 創造性と安定性を兼ね備えた浜松の産業が、世界経済を支えている。



10年後の姿（政策の柱）

- ◆ 輸送用機器関連産業に次ぐ新たなリーディング産業\*が集積し、持続可能な地域経済が確立している。
- ◆ 来訪者が浜松の魅力とおもてなしを実感し、リピーターが増えている。
- ◆ 多様な担い手による付加価値の高い農林水産業が行われている。

### 10年後の姿の実現に向けて

#### --- これまでの取り組みを強化 ---

オール浜松体制の産学官連携による総合的な産業支援のもと、ものづくり産業の高度化と新産業\*の創出を図ることで、新たな市場の開拓を進め、競争力のある複合的な産業構造が確立できるよう支援します。また、活力ある海外市場の需要を取り込み、国内事業の活性化を図ろうとする意欲的な地域企業の海外展開を促進します。

農林水産業では、担い手の育成を図るとともに、安定した農地の確保、持続可能な森林管理、適切な水産資源の確保を通じて、国内外に安全で安心な浜松産の農林水産物を安定的に供給します。

さらに、創造都市の玄関口にふさわしいまちなかの創出や、国内外に通用する浜松ブランドの確立など、来訪した多くの人がおもてなしを実感できるよう、浜松の魅力を高めます。

#### --- 未来に挑戦する取り組み ---

多様な産業の発展とクリエイターが育つ環境づくりを支援し、成長産業が集積する都市、創業がしやすい都市として世界に発信します。

農林水産業では、ICTの活用やマーケティング手法の導入などにより、生産性の高い新たな流通システムの構築を促進します。さらに、健康や福祉などの分野と結びつくよう支援し、多様な担い手が参画できる仕組みを整え、付加価値の高い農林水産物を生産します。

浜松地域の産業経済を順調に推移させるため、就労相談等についてワンストップサー

\*リーディング産業：地域の経済を主導していく中核的な産業。浜松地域では、輸送用機器関連産業がリーディング産業となっており、複合的な産業構造を目指し、輸送用機器関連産業に次ぐ新たな産業の創出に取り組んでいる。

\*新産業：輸送用機器関連産業、楽器産業、繊維産業などの既存産業以外の、地域をけん引する新たな産業。

ビスの提供ができる体制の整備など、人と仕事をつなぐ環境の充実を図ります。

## 基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

### 世界の一步先を行く産業・サービスの創造

- ◆ 地域企業の新たな事業展開や成長産業へのチャレンジを支援します。
- ◆ JETRO<sup>\*</sup>や金融機関などとの連携により、中小企業の海外展開を支援するとともに、地域企業が連携した自立的な海外販路展開を促進します。
- ◆ 国内外の大学や企業、産業支援機関、金融機関のネットワークを構築し、新産業の創出を促進します。
- ◆ 将来の産業需要に合った工場用地を整備し、新たなリーディング産業を誘致します。
- ◆ ものづくりの専門家の技術を継承する仕組みづくりを構築するとともに、製品の販路を開拓し、地域産業の技術力向上を支援します。
- ◆ 浜松駅周辺エリアにおいて、魅力的な個店同士がつながり、切磋琢磨する環境づくりを進めるとともに、企業のオフィス進出を支援します。
- ◆ 住みやすく、歩行者や自転車に優しいまちなかの形成を進め、都心居住者数の増加を図り、浜松駅周辺エリアの活性化を促進します。
- ◆ 浜松及び近隣地域の観光資源を活かした着地型旅行商品<sup>\*</sup>の企画に向けて、人材の育成と体制の確立を支援します。
- ◆ ICTを活用した観光施設や公共交通機関の案内、飲食メニューの表示などを進め、来訪した多くの人がおもてなしを実感できる環境を創出します。
- ◆ 労働意欲を就労に結びつけ、だれもがやりがいを持って安心して働くことができる雇用環境の整備を支援します。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 社会実験や製品・サービスの研究開発による、新ビジネスモデルの創出を図ります。
- ◆ ベンチャー企業や新たな事業展開を支援するとともに、個人や企業の投資を活発化させ、創業がしやすい環境を整備します。
- ◆ 地域企業との相乗効果が見込まれる外資系企業を誘致します。
- ◆ 国内外に通用する浜松ブランドを確立し、観光関連産業を主要な産業のひとつにします。
- ◆ 国・県・市の重複支援を解消し、就労支援のための総合センター機能を創設します。
- ◆ 年齢、性別、障害、国籍など、それぞれのケースに応じた相談、伴走型支援、無料職業紹介等、きめ細かなワンストップサービスを提供します。

<sup>\*</sup>JETRO：Japan External Trade Organization（日本貿易振興機構）。貿易・投資促進と開発途上国研究を通じ、日本の経済・社会の更なる発展への貢献をめざし、日本企業の海外展開支援、外国企業の日本への誘致などを行う独立行政法人。

<sup>\*</sup>着地型旅行商品：これまでの都市部の旅行会社で企画される「発地型」に対し、旅行目的地の地域主導で企画される産業観光やグリーンツーリズムなどのその地域に密着した体験型旅行のこと。

(基本政策)

## 作業から経営に！変革を遂げる農林水産業

- ◆ 農地の流動化を促す仕組みを構築し、農地の集約化を進めます。
- ◆ 農林水産業の6次産業化\*を進め、国内はもとより輸出販売に向けた戦略的経営を支援します。
- ◆ 野生鳥獣の生息環境を保全し、農作物の食害の減少を図ります。
- ◆ 林業の集約化と規模の拡大を促進し、木材の生産と流通が効率的に行われる環境を整えます。
- ◆ 間伐と再造林による森林資源の循環を推進し、持続可能な森林経営・管理を支援します。
- ◆ 他産地の木材と差別化した市場競争力のある木材の供給を促進します。
- ◆ 住宅用の木材のほか、家具や玩具、木質バイオマスなど多面的な木材の利用を促進します。
- ◆ 水産基地・基盤の再整備による生産から流通の効率化を促進し、漁業経営が安定する環境を整えます。
- ◆ 漁や養殖など、多様な水産業がバランス良く行われるよう支援し、水産資源の適正な管理を図ります。
- ◆ 市民が安全な食品を安心して手に入れることができるよう、卸売市場の機能を保全します。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ ICTの活用やマーケティング手法の導入などにより、効率的で生産性が高い農林水産業経営の実現を支援します。
- ◆ 生産から販売までが一体となった流通システムの構築やトレーサビリティ\*などの取り組みを支援し、安全で安心な浜松産の農林水産物の更なる価値の向上を図ります。
- ◆ 地産地消を進めることで、市内の学校給食、社員食堂、レストラン等で地元食材の利用を促進します。
- ◆ 農林水産業と地域の観光産業の融合により、自然、文化、人々との交流を楽しむグリーン・ツーリズムを推進します。

\* 6次産業化：農林漁業者による事業の多角化及び高度化のこと。農林漁業者による加工、販売への進出を示す。

\* トレーサビリティ：物品の流通経路を生産段階から最終消費段階あるいは、廃棄段階まで追跡が可能な状態。



## ②子育て・教育

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）

【実現を目指す1ダースの未来：06、08、10、12】

- ◆ 地域の宝として愛情を注がれた子どもたちは、浜松に誇りを持ち、世界を舞台に活躍している。



10年後の姿（政策の柱）

- ◆ 子どもたちの成長を第一に考えた地域社会のサポートにより、仕事と子育てが両立できる環境が整っている。
- ◆ すべての子どもたちは、互いの個性を認め合い、夢と希望を持って学び、生きる力を身に付けている。

### 10年後の姿の実現に向けて

#### --- これまでの取り組みを強化 ---

子育て世代が子どもを安心して生み育てられるように、充実した相談体制や費用の助成により子育てに対する不安感や経済的負担を軽減します。また、幼児教育・保育施設の整備などを行うとともに、子育て中の就労・子育て後の社会復帰を支援するなど、子育てがしやすい生活環境を整えます。

学校教育では、すべての子どもたちが生きる力を身につけられるよう、教職員の指導力の向上や教育環境の整備・充実に取り組みます。また、不登校、外国人、障がいのある子どもへの支援体制を整えるとともに、互いの個性を認め合い、心の通い合う温かで優しい人間関係を築き、いじめをしない、許さない子どもを育てます。さらに、音楽を中心とした芸術や地域の伝統文化などに触れる機会を設け、創造性豊かな子どもたちを育成します。

#### --- 未来に挑戦する取り組み ---

事業所内保育<sup>\*</sup>や市民主体の子育てサポートの促進など、仕事と子育てが両立できる環境づくりを支援することで、家庭と企業、地域が一体となって子どもたちに愛情を注ぎ、その成長を見守る環境を整えます。

また、ICTの活用などにより、能力や興味に応じた学びの機会と場を整えることで、子どもたちが自分の未来を描き、夢と希望に向かって主体的に行動できるよう、意欲と才能を最大限に引き出し伸ばす教育を推進します。

<sup>\*</sup>事業所内保育：主として企業の従業員の子どものほか、地域において保育を必要とする子どもに保育を提供すること。

## 基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

### 子どもの育ちを支え、若者の自立を応援するまちづくり

- ◆ 子どもと家庭に対して、関係機関と連携し総合的な支援体制の強化・充実を図ります。
- ◆ 医療費をはじめとし、子育て、幼児教育・保育に要する費用負担の軽減に取り組めます。
- ◆ 幼稚園・保育所の認定こども園への移行を促進するとともに、幼児教育・保育の需要に応じて幼稚園教諭、保育士、保育教諭を育成することにより、多様な子育てに対応できる環境を整えます。
- ◆ 多様な主体が放課後児童会\*を運営することで、地域における子どもたちの放課後の居場所を増やします。
- ◆ 児童虐待の発生予防と早期発見・早期対応に取り組めます。
- ◆ 社会的養護体制\*の充実を図るなかで、里親制度\*の普及啓発と強化に取り組めます。
- ◆ 複雑な悩みを抱える若者を支援する専門的な人材の育成を促進し、相談体制の充実や支援機関の連携強化を図ります。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 学生や地域の子育て中の親子、高齢者などが世代を越えて集うことができる、魅力的な場所を整備します。(新しい子育て支援ひろば\*を展開します。)
- ◆ 地域の大人が地域の子どもや子育て中の親と交流する機会を増やし、困った時に助け合う相互扶助の気運を醸成します。
- ◆ ワーク・ライフ・バランスの実現に向け、企業などの理解を深め、事業所内保育などの実践を促進することで、仕事と子育てが両立できる職場環境づくりを支援します。

(基本政策)

### 市民協働による未来創造へのひとづくり

- ◆ 社会全体で、規範意識やマナー、自他を大切に作る心、望ましい生活習慣、健康的な体などをはぐくみ、成長を見守ります。
- ◆ 知識を活用し新たなものを創り出す力、環境や価値観の異なる人たちと協働する力、自立的に行動し自分が進むべき方向性を見出す力をつけることのできる環境を整えます。
- ◆ 情報教育や環境教育を推進し、情報を効果的に利活用する力や環境保全に対する意識の向上に取り組めます。
- ◆ 英語教育や国際理解教育を充実することにより、グローバル社会に対応する力を伸ばします。
- ◆ 学校、家庭、地域が防災・防犯に関する連携を強め、子どもが、いつでもどこでも自分の安全を確保できるようにします。
- ◆ 子どもと大人の心の通い合う温かい人間関係を構築し、いじめをしない、許さない社会を醸成します。
- ◆ 教育活動や授業改善、教職員研修に取り組み、確かな指導技術を身につけた、家庭や地域に信頼される教師を育成します。

\* 放課後児童会：保護者が居間家庭にいない児童に放課後の小学校の余裕教室などを活用して適切な遊びや生活の場を与え、児童の健全育成を図る事業の名称。

\* 社会的養護体制：里親、小規模住居における養育事業、施設、児童家庭支援センターなどの社会的養護を担う機関または事業。

\* 里親制度：保護者の病気、家出、離婚などの様々な事情により、家庭に恵まれない子どもたちに、家庭に代わる養育環境を提供し、温かな愛情と理解を持った家庭的な環境の中で養育する制度。

\* 子育て支援ひろば：子育て家庭のための相談、情報提供、講習などを行う常設の広場。



- ◆ 基幹教員\*やコーディネーターの適正配置をはじめとし、子どもの成長と学びに応じたサポート体制を整えます。
- ◆ 学校、家庭、地域が目指す子どもの姿を共有し、特色ある「はままつの人づくり」に取り組みます。
- ◆ 家庭や地域の学校運営への参加を促進するために、学校経営方針\*、学校評価\*などの情報を積極的に発信します。
- ◆ 施設・設備の適切な補修や改築を行うことにより、子どもたちの安全で安心な学校生活を確保します。
- ◆ 奨学金や就学バスなどの充実により、学校規模の大小や家庭環境の違いによる教育格差を解消します。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ ICT 環境の整備や、ICT を活用した分かりやすい授業づくりなどを推進します。
- ◆ すべての子どもが能力や興味に応じた学びを選択し、深めることができる環境を整えることで、一人ひとりの意欲と才能をさらに伸ばします。
- ◆ 家庭や地域、企業、各種団体などが一体となって子どもの教育に取り組み、学びの機会と場が拡大する体制を整えます。

---

\* 基幹教員：英語、体育、保育など各分野において中心的な役割を担う教員のこと。

\* 学校経営方針：校長が教育活動の具体的な目標と方策を設定し、教職員全員がそれに向かい協働体制を確立するために策定するもの。

\* 学校評価：子どもたちがより良い教育を享受できるよう、教育活動などの成果を検証し、学校運営の改善と発展を目指すための取り組み。



## ③安全・安心・快適

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）

【実現を目指す1ダースの未来：04、05、07、11、12】

- ◆ どこでも安全、いつまでも安心、持続可能で快適なまちになっている。



10年後の姿（政策の柱）

- ◆ 災害、犯罪、事故などの危険から、自分の命と財産を自分で守る意識を身に付けている。
- ◆ 居住エリアの集約化などが進み、コンパクトなまちづくりが進んでいる。

### 10年後の姿の実現に向けて

#### --- これまでの取り組みを強化 ---

防災対策に関しては、防潮堤の早期実現、防災施設の整備、消防・救急体制の充実を図り、道路・橋・上下水道などの強靱化、建築物の耐震化などを進めるとともに、地域と行政が連携した防災訓練を通して、地域防災力の強化を図り、災害に強いまちづくりを進めます。

また、交通安全教育の充実や安全な通学路の整備などを総合的に進め、交通事故のない社会を実現します。

さらには、地域防犯の取り組みにより、犯罪を起こさせない、犯罪に巻き込まれない社会を目指すとともに、消費者教育を推進し、豊かな消費者市民社会\*の形成に努めます。

自助・共助・公助の取り組みを通じ、「自分の命と財産は自分で守る」意識を高め、安全・安心なまちづくりを進めます。

#### --- 未来に挑戦する取り組み ---

集約した居住エリアを含む拠点を配置し、拠点間を公共交通ネットワークで結ぶ「拠点ネットワーク型都市構造」への転換を目指します。また、豊かな自然環境と共存しながら、都市の緑化推進に努めるとともに、空き家・空き地の有効活用や土地利用の適正化などにより、都市活力の向上を図りつつ、快適なまちづくりを進めます。

### 基本政策の実現に向けた取り組み

（基本政策）

**みんなの力で自然災害から生き残る**

\*消費者市民社会：消費者が、購入する商品の選択など自らの行動をとおして、現在及び将来の社会経済や地球環境にまで影響を及ぼし得ることを自覚し、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に関わっていく社会をいう。

- ◆ 公共インフラなどのハード整備を進め、自然災害がもたらす被害の低減を図ります。
- ◆ 市の危機管理体制を強化するとともに、復旧・復興が早期にできる体制を整備します。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 防災に関する知識と意識を持ち行動ができる市民を育てる環境を整備します。
- ◆ 複数の伝達手段を整備し、災害情報を迅速に発信します。

(基本政策)

## 安全で安心して暮らせる持続可能な地域社会づくり

- ◆ 防犯講座や防犯意見交換会の開催により、高齢者の関わりを強化しながら、地区ごとの連携を図ります。
- ◆ 消費生活相談窓口・地域の見守りネットワーク体制の強化、情報の活用基盤の整備を図り、消費生活の安心・安全を推進します。
- ◆ 学校・地域・家庭・職場における消費者教育を推進します。
- ◆ 火葬需要の増加と施設の老朽化に対応し、斎場の再編整備を進め、火葬業務に支障がない体制整備を図ります。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 消費者行政推進のため、消費者教育の拠点を整備します。
- ◆ 市民に消費者市民社会の形成に参画することの重要性について周知します。
- ◆ すべての地区への地区安全会議<sup>\*</sup>設立を促進し、情報提供や支援を行います。

(基本政策)

## 市民が集う活力ある都市づくり

- ◆ 鉄道駅周辺や公共交通がある基幹道路周辺に、居住や医療・福祉施設、子育て支援施設などの都市機能を集積する誘導エリアを設定し、都心を含めたエリアへの居住を推進することで集約型の都市づくりを目指します。
- ◆ 主要駅における駅前広場の整備など乗換利便性を向上させることにより、交通結節点の機能を強化します。
- ◆ 環境・歴史・文化・経済等の地域特性に配慮した、安全で快適な生活環境の確保と市域全体の魅力ある環境づくりを行い、開発と保全のバランスある土地利用を推進します。
- ◆ 建築物、屋外広告物等が、心地よい景観の構成要素として市民や企業に広く認識され、周辺のまちなみ景観や自然景観と調和したデザインとなるように誘導し、地域の魅力を高めます。
- ◆ すべての建築物の耐震化を促進し、安全性を確保します。
- ◆ 道路沿いの危険な転倒物等の改善を促進するとともに、狭い道路の拡幅整備を推進します。
- ◆ 市営住宅については、定期的な改修や、民間活力を導入した集約建替を行います。
- ◆ 協働により、緑豊かで花があふれる快適で美しいまちづくりを促進します。
- ◆ 防災機能が充実した総合運動公園や浜松城公園の整備を進め、誰もが安全に安心して利用できる憩いの場を提供します。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 大規模な公園の管理運営において、民間活力の導入を目指します。
- ◆ 動物園の再生を目指し、施設のあり方を含めた改修計画を推進します。

<sup>\*</sup>地区安全会議：住民による自主的防犯活動や地域ぐるみの安全活動を支える組織として、中学校区程度の地域内の自治会組織を中心に、健全育成会、地域安全推進員、防犯ボランティア、事業所等の様々な団体や個人が連携し、防犯活動を検討・実施している団体。平成25年度末現在、対象となる市内59地区のうち、46地区に地区安全会議が設立されている。

- ◆ 建物のリノベーションや低・未利用地を活用することで、新たな産業の起業・集積を促進し、都心部での雇用を創出するとともに、文化創造の拠点を形成します。

(基本政策)

## 安全な生活基盤づくり

- ◆ 道路・河川施設等の適切な維持管理を行い、長寿命化を進めます。
- ◆ 河川、排水路等の整備により浸水被害を軽減するとともに、河川の氾濫が予想される区域の最新情報を市民に周知します。
- ◆ 「多自然川づくり<sup>\*</sup>」や河川愛護活動を継続、継承し、良好な水辺環境を創出します。
- ◆ 土砂災害警戒区域等における防止対策や警戒避難体制の整備により、市民の安全を図ります。
- ◆ 歩道や道路照明などの老朽化対策とともに、ユニバーサルデザイン<sup>\*</sup>化や「自転車走行空間<sup>\*</sup>」の整備を進め、道路環境の安全性の向上を図ります。
- ◆ スマートインターチェンジの設置及び幹線道路の整備により、市街地と高速道路とのアクセス性の向上や利便性を高め、道路網の充実と地域の活性化を図ります。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 効率的・持続的な道路管理を行うため、予防保全への転換を図るとともに、緊急輸送路など重要道路の橋りょうの耐震化対策を完了します。
- ◆ 道路・河川台帳などのインフラ管理の ICT 化を進めます。

(基本政策)

## いつでも、どこでも、迅速的確に対応する消防・救急体制づくり

- ◆ 署所や消防団庁舎を適正に配置に向けて、計画的に整備を行います。
- ◆ 職員の教育訓練や研修制度を整備し、能力・資質の向上を図ります。
- ◆ 自治会や事業者等との連携を強化し、消防団員の確保を図ります。
- ◆ 火災予防広報の充実により、市民の防災意識を高めます。
- ◆ 救急車の適切な配置及び迅速搬送により、病院収容までの時間を短縮します。
- ◆ 救急救命士による特定行為<sup>\*</sup>の処置範囲の拡大により、病院到着前の救護体制を強化し、救命率の向上及び傷病者の後遺症の軽減を図ります。
- ◆ 大規模災害時における、消防・防災ヘリ応援機の受入れ体制及び運用体制を整備します。
- ◆ 消防車両及び消防用資機材を適切に配置し、消火、救助能力を向上するとともに、安全で確実な車両の管理を行います。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 住宅用火災警報器の全世帯への設置を促進します。
- ◆ ICT を活用し、迅速に 119 番通報ができるシステムを構築します。
- ◆ 危険度を問わず、すべての違反對象物<sup>\*</sup>において是正を図ります。

<sup>\*</sup>多自然川づくり：単なる自然保護だけでなく、自然を積極的に再生しながら水辺の環境づくりを進める考え方を基調として、自然素材（石材、木材、植物）を使った川づくり。

<sup>\*</sup>ユニバーサルデザイン：年齢、性別、能力、国籍などの人々が持つ多様な特性や違いを超え、すべての人に配慮して心豊かな暮らしづくりを行っていかこうとする考え方。

<sup>\*</sup>自転車走行空間：自転車が安全に安心して走行できる道路、又は道路の部分

<sup>\*</sup>特定行為：救急救命士が医師の具体的指示により実施可能な救急救命処置（心臓や呼吸が停止している傷病者に対する点滴処置、器具を使用した気道確保処置及び薬剤の投与、心臓や呼吸が停止していない傷病者であっても、意識状態が悪い等条件に合った対象者に対する点滴処置、血糖測定並びに低血糖症例への薬剤の投与）

<sup>\*</sup>違反對象物：設置義務のある設備が設置又は維持管理されていない、防火管理が適切に行われていないなど、消防法令等に違反する建物、工作物等の防火対象物

(基本政策)

## 安全な水と快適な生活、社会環境を水循環で支える上下水道

- ◆ 最新の科学的知見に基づいた浄水処理を行い、万全な管理体制により水道水の品質を維持します。
- ◆ 工場排水、農薬、油脂、微生物など水道水の取流域の汚染リスクに関する情報を的確に把握し、厳重な監視の下で適切な対応を図ります。
- ◆ 管路や施設の「耐震化・長寿命化計画」について、アセットマネジメント\*に基づき時点修正を加えながら確実に進めます。
- ◆ 大規模災害時などにおいて、復旧用資材を広域的に調達できる体制を構築します。
- ◆ 下水道、合併処理浄化槽、農業集落排水事業等の各事業の連携により、適正な生活排水処理を推進し、汚水による環境負荷を低減して都市の環境を堅実に支えます。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 官民連携手法により事業の一部を民間へ委ねるなど、上下水道事業の経営を合理化するとともに技術力の継承、共有化を進めます。
- ◆ より高度な ICT を取り入れ、検診業務や料金等徴収業務を省力的かつ一体的に管理します。

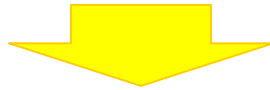
\*アセットマネジメント：上下水道事業においては、保有する管路・施設等の資産の状態を良好に維持、管理及び更新する「費用」と、給排水に係るサービスのレベルを適切に保つ「効果」のバランスについて、リスク回避という視点を踏まえつつ最適化していく企業活動をいう。この活動を確実に実践することにより、健全かつ持続可能な上下水道事業経営を実現する。

## ④環境・エネルギー

### 浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）

#### 【実現を目指す1ダースの未来：03、04、12】

- ◆ 豊かな自然に恵まれ、環境への負荷を抑えたエネルギーに対する不安のない暮らしや企業活動が送られている。



### 10年後の姿（政策の柱）

- ◆ ごみの減量や資源化、自然環境の保全に取り組み、環境負荷の少ないライフスタイルが定着している。
- ◆ 再生可能エネルギー等が広く導入されるとともに、建物などのエネルギーの最適利用が進み、エネルギー自給率が高まっている。

## 10年後の姿の実現に向けて

### --- これまでの取り組みを強化 ---

天竜川、浜名湖、遠州灘、南アルプスなどの豊かな自然は、多様な動植物をはぐくんでいます。この豊かな自然の恵みを次の世代へ引き継ぐために、自然環境と共生するまちづくりを推進するとともに、市民生活に環境への負荷を抑える活動を取り入れ、温暖化防止を促進します。環境に配慮したライフスタイルが定着し、安心して暮らせる住み心地よさが多くの方に認識されるよう、環境のブランド力向上を目指します。

全国トップクラスの日照時間を活かした太陽光発電や木材資源等を有効に活用するバイオマス発電\*などの再生可能エネルギー\*の導入を一層拡大するとともに、住宅・工場・事業所などのエネルギーの最適利用を推進し、エネルギー自給率を高めます。

### --- 未来に挑戦する取り組み ---

ごみ減量や資源化、ごみの適正処理など、行政・市民・事業者がそれぞれの役割と責任を果たし、3R（リデュース・リユース・リサイクル）\*を推進する政策に取り組み、ごみ処理や埋立施設の長期的な使用、効果的な活用を実現します。

スマートコミュニティ\*の構築に向け、ICTを活用し、住宅団地や工業団地などの地域単位で、エネルギーの最適利用が進むよう取り組みます。また、エネルギーの地産地消を推進するため、再生可能エネルギーを活用した安定・安価な電力供給体制を構築しま

\*バイオマス発電：バイオマスを燃料とした発電。バイオマスとは、生物資源（bio）と量（mass）を組み合わせた言葉であり、間伐材、生ごみ、下水道汚泥などのバイオマス（動植物に由来する有機物である資源（化石燃料を除く））を活用し、発電すること。

\*再生可能エネルギー：太陽光、風力、水力、バイオマスなど、一度利用しても再生可能で資源が枯渇しないエネルギー。

\*3R（リデュース・リユース・リサイクル）：発生抑制（リデュース：Reduce）、再使用（リユース：Reuse）リサイクル（Recycle）という循環型社会形成のための3つの言葉を英単語にし、その頭文字のRをとったものをいい、「スリーアール」と読む。

\*スマートコミュニティ：住宅団地や工業団地など、一定のエリアで、エネルギーを無駄なく賢く活用する次世代の社会システム。

す。さらに、地域産業の活性化に向け、発電・省エネルギー・電力供給など、成長産業として期待されるエネルギービジネスの創出を推進します。

## 基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

### 環境と共生した持続可能な社会の実現

- ◆ 本市の環境特性を踏まえた環境配慮の仕組みづくりと体制の充実を図ります。
- ◆ 環境教育推進ネットワークを活用し、持続可能な社会の実現に向けて自ら行動する人材の育成を推進します。
- ◆ 緑地・水域を保全し、緑や水の持つ機能を複合的・効果的に利活用する空間づくりを推進します。
- ◆ 市民や事業者へ生物多様性\*に対する啓発や活動支援を行い、自然環境の保全を推進します。
- ◆ 大気、騒音及び水質の環境基準を満たす取り組みを進め、市民一人ひとりが騒音や悪臭の防止を常に心がけるよう啓発します。
- ◆ 市民にとって分かりやすく効率的な排出ルールづくりを行います。
- ◆ 施設の長寿命化や災害時のバックアップ機能の確保を図り、安定的なし尿処理\*体制を確立します。
- ◆ 取り締まりを強化し、地域への啓発活動を実施することで、不法投棄のない美しいまちづくりを目指します。

#### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 3R に対する市民や事業者の関心を高め、ごみ減量及び資源化を推進し、西部清掃工場と新清掃工場の 2 工場体制で安定したごみ処理を実施するとともに最終処分場\*の延命化を進めます。

(基本政策)

### 再生可能エネルギー等の導入と省エネルギーの推進によるエネルギー自給率の向上

- ◆ 太陽光発電やバイオマス発電等の再生可能エネルギーやガスコージェネレーション\*等の自家発電設備の導入を推進します。
- ◆ 住宅・工場・事業所等の建物において、徹底した省エネルギー化とエネルギーの最適利用を推進します。

#### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ スマートコミュニティの構築に向け、エネルギーの最適利用を個々の建物から住宅団地や工業団地などへ広がります。
- ◆ エネルギーの地産地消\*に向け、再生可能エネルギーを活用した安定かつ安価な電力供給体

\*生物多様性：生きものの豊かな個性とつながりのこと。様々な自然環境の中で多種多様な生物が存在し、それらが全て直接的・間接的に支えあって微妙なバランスを保ちながら生きていること。

\*し尿処理：家庭や事業所等から収集したくみ取りし尿や浄化槽汚泥を、衛生的に施設で処理すること。

\*最終処分場：廃棄物は、資源化又は再利用される場合を除き、最終的には主に埋立処分される。埋立処分を行う施設が最終処分であり、家庭ごみなどを埋立てる「一般廃棄物最終処分場」では、ガラスくず等の燃えないごみや焼却施設から排出される焼却灰等が埋立てられる。

\*ガスコージェネレーション：都市ガスや LP ガスを燃料に、電気と熱をつくることができる自家発電設備。

\*エネルギーの地産地消：太陽光やバイオマスなど、地域でつくった電力をその地域内で消費すること。



制を構築します。

- ◆ 地域産業の活性化に向け、発電、省エネルギー、電力供給など、エネルギーに関わる新たな技術やビジネスの創出を推進します。

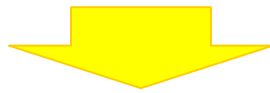


## ⑤健康・福祉

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）

【実現を目指す1ダースの未来：07、09】

- ◆ 支え合いによって、だれもが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らすことができる。



10年後の姿（政策の柱）

- ◆ 地域での支え合いの仕組みづくりが進んでいる。
- ◆ 病気の発症や重症化を予防することにより、健康寿命が延びている。

### 10年後の姿の実現に向けて

--- これまでの取り組みを強化 ---

インクルージョン\*の考え方の普及に取り組み、住民が互いに支え合う地域づくりにより、高齢の人、障がいのある人の活躍の場を広げます。

活躍の場を求めている高齢の人に対しては、就労支援を進めるとともに、ボランティアなどの社会貢献活動に参加しやすい仕組みを構築します。これによって、高齢になっても住み慣れた地域で、いつまでも生きがいを感じながら安心して暮らすことができる地域社会を目指します。

心身に障がいのある人には、働くことで、生きがいを感じることができる就労環境を提供します。また、相談支援事業所などで働く職員の質の向上やグループホームなどの計画的な整備によってサービスを充実しつつ、関連団体と連携し、障がいのある人に対する市民の理解を深め、地域での支え合いの基礎を固めます。

また、病気や介護の予防に重点を置き、心と体の健康を維持しながら、いきいきと暮らし、快適で質の高い生活を送ることができるよう支援します。介護などが必要な人に対しては、医療・介護機関の連携を一層強化し、在宅などの必要なサービスが円滑に提供できる体制を整備します。

医療水準の向上のため、市内の病院と診療所が相互に連携し、救急時なども安心できる医療体制を維持するとともに、地域に貢献できる有能な医療スタッフの育成を支援します。

\*インクルージョン：包み込むという意味で、障害の有無などにかかわらず、すべての人が社会の中で生活し、そのニーズに応じた地域生活支援を受けられるようにしていくこと。

### --- 未来に挑戦する取り組み ---

地域での支え合いの仕組みづくりを促進するため、すべての地区に地区社会福祉協議会が設立されるよう支援します。また、地域のNPO、福祉団体等が相互に協力し、地域課題の解決に連携して取り組みます。

移動や生活に支援が必要な人の情報が災害時にも速やかに活用できる仕組みを構築し、平常時の見守りと災害時の支援を一貫して実施します。

## 基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

### 人々の「つながり」をつくる社会の実現

- ◆ インクルージョンの考え方の普及に取り組み、高齢の人や障がいのある人も社会を支える一員として雇用される環境を整備します。
- ◆ 心身の機能低下により支援が必要な高齢の人には、適切な福祉サービスを充実します。
- ◆ 元気な高齢の人の社会参加を後押しします。
- ◆ 高齢の人、障がいのある人など、あらゆる人が地域の中で孤立することなく、多くの人に見守られながら住み慣れた地域や家庭で安心して暮らすことのできるよう、在宅サービスの充実など、環境を整備します。
- ◆ 地域にボランティアの交流活動拠点が整備され、地域住民のボランティア活動への参加を支援します。
- ◆ 障がいのある人に対する理解の普及・啓発を推進します。
- ◆ 障がいのある人の差別を解消し、虐待を防止します。
- ◆ 障がいのある人を支援する団体等との連携を強化し、研修や講座、相談支援の協力・参画の推進をします。
- ◆ 地域生活を支えるためのグループホーム等の計画的な整備によって、福祉サービスの充実を図ります。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ すべての地区に地区社会福祉協議会が設立されるよう支援します。
- ◆ コミュニティソーシャルワーカー（CSW）\*の配置を拡充し、地区社会福祉協議会や地域のNPO、福祉団体等が相互に連携し、地域課題の解決に取り組みます。
- ◆ はままつあんしんネットワーク\*と災害時避難行動要支援者\*の支援対象者の統一を図り、平常時の見守りと災害時の支援を一貫して実施する体制を確立します。

(基本政策)

### 人々の「心身の健康と生活」を守る医療の充実

- ◆ 「自分の健康は自ら守りつくる」ことを基本として、市民一人ひとりが健康づくりに取り組みやすい環境を整備します。
- ◆ 生活習慣病の発症予防と重症化予防に取り組みます。

\*コミュニティソーシャルワーカー（CSW）：地域住民などからの相談に応じ、福祉課題の解決に向けた取り組みや行政への提言などを行う、地域福祉活動などを支援するための専門的な福祉コーディネーターのこと。

\*はままつあんしんネットワーク：ひとり暮らし高齢者や高齢者世帯など、日常生活に不安を抱える高齢者等が、住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、市民の支え合いの心で見守り、支援する仕組み。

\*災害時避難行動要支援者：災害時において、家族以外の第三者の支援がなければ避難所等への避難行動が難しい障がいのある人や、要介護者、ひとり暮らし高齢者などのこと。

- ◆ 生涯にわたり歯と口の健康増進を支援します。
- ◆ 公立病院は、医療制度改革や医療の多様化・高度化等に対応した病院経営を進め、救急医療、回復期医療、へき地医療など、地域で求められる役割を果たします。
- ◆ 病院と診療所が相互に連携し、救急時でも安心できる医療体制を維持します。
- ◆ 地域に貢献できる有能な医療スタッフの育成を支援します。
- ◆ 中山間地域にも対応した在宅医療などが実施されるよう、地域包括ケアシステム\*の整備を促進します。
- ◆ 精神障がいや疾患のある人が、住み慣れた地域において安心して暮らすことができるよう、行政及び民間の相談員によるアウトリーチ\*の促進や地域の理解の向上を図ります。
- ◆ だれもが周囲の人のこころの不調に気づき、専門の相談機関での適切な相談を受けることができる環境を整え、自殺者の減少を図ります。
- ◆ インフルエンザなどの感染症対策として、うがいや手洗いなどの衛生行動の習慣化を推進します。
- ◆ 食品製造施設の衛生管理の徹底など、食の安全対策・検査体制を充実します。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ だれもが専門性の高いメンタルヘルス相談ができるよう、医療、民間、行政の相談機関のネットワークを構築します。

---

\*地域包括ケアシステム：在宅の介護や生活支援を必要とする方に対して、「医療」、「介護」、「予防」、「住まい」、「生活支援サービス」を切れ目なく、有機的かつ一体的に提供することを目指した仕組み。

\*アウトリーチ：生活に困難さを抱えた方の自宅などへ出向いて相談及び生活支援を行い、入院や入所だけに頼らない地域生活の実現を目指す取り組み。

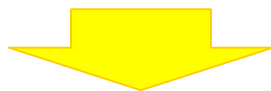


## ⑥文化・生涯学習

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）

【実現を目指す1ダースの未来：05、09、11、12】

- ◆ 創造都市を実現し、音楽の都として世界から注目されている。



10年後の姿（政策の柱）

- ◆ 音楽などの芸術をきっかけとして新たな文化や産業が創出されている。
- ◆ 多様な歴史・文化による豊かさやスポーツによる喜びを市民が実感している。

### 10年後の姿の実現に向けて

#### --- これまでの取り組みを強化 ---

国際的な演奏会の開催や市民の国際的な音楽交流などを通じて、音楽の都として世界に認められる文化を創造します。また、知性や感性を刺激するような魅力のある展覧会などを開催するとともに、地域の芸術家や文化団体の創作活動への支援や活動を活発化させる情報発信に取り組みます。

さらに、学びを周りの人に広げる「学びの連鎖」を進展させ、市民主体の学習活動を拡大します。そして、地域の個性をはぐくんできた伝統芸能などの文化遺産の保全・活用を進め、地域の歴史・文化の積み重ねが新たな文化創造の礎となるよう、次世代に継承します。

#### --- 未来に挑戦する取り組み ---

音楽文化などを通じて、世界の都市との新たな連携を進め、国内外に感動を与える創造都市を築きます。地域の芸術家や文化団体に対しては、芸術・文化に精通した専門家による活動支援を推進するなど、新たな創造の担い手を育成・支援する基盤を整え、世界で活躍するミュージシャンやクリエイター\*を輩出させます。また、文化施設や生涯学習施設、スポーツ施設などでは、機能を充実するとともに、民間も含めた施設の複合化を進めるなど、利用者の利便性の向上に取り組みます。

### 基本政策の実現に向けた取り組み

（基本政策）

**感動のある生活、歴史・文化・スポーツによる豊かさの創造**

\*クリエイター：映像・アプリケーションといったコンテンツを創り出すなど、個人の創造性や技術、才能を産業活動の中で発揮し、付加価値の高い商品・サービスを創出する人のこと。

- ◆ 音楽の都として、浜松国際ピアノコンクールなど、国際的な音楽イベントを通じて、市民の多くが多様な音楽に触れる機会を創出します。
- ◆ 健康・体力づくりから競技に至るまで、ライフスタイルに応じたスポーツの取り組みを支援します。
- ◆ スポーツ団体などの競技力・指導力を高めるため、スキルを有した指導者を派遣します。
- ◆ ニーズに沿った市民主体の企画による講座などを増やして、生涯学習の機会を創出することで、市民の知識欲をかき立てます。
- ◆ 歴史的価値の高い文化遺産や地域文化を次世代へ継承する人材を育成し、市民協働による文化の継承・活用を進めます。
- ◆ 三遠南信地域などの広域的な交流・連携を通じて、文化遺産の保全・活用に取り組みます。
- ◆ 市民の知性や感性を刺激する魅力的な展覧会などを開催するとともに、質の高いアートなどの創作活動への支援や活動を活発化させる情報発信に取り組みます。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 音楽文化などを通じ、ユネスコ創造都市ネットワーク\*加盟都市などとの新たな連携を進めて、市民の国際交流を活発化します。
- ◆ ミュージシャンやアーティスト、クリエイターが、創作活動を活発化し、新たな価値を生み出すための環境を整備します。
- ◆ ラグビーワールドカップ2019、2020年東京オリンピック・パラリンピックに係る事前合宿及び国際スポーツイベントの誘致を進めるとともに、本市の豊かな自然環境を活かしたスポーツツーリズム\*を推進します。
- ◆ スポーツ施設や生涯学習施設では、民間活力を活かした施設の複合化などにより、利用者の利便性を高めます。

\* ユネスコ創造都市ネットワーク：地域固有の文化の消失を防ぎ、文化的多様性を保持することを背景に、創造的・文化的産業の振興と持続可能な都市の開発に向けた国際的な都市間連携・交流を促進するプログラム。ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）が加盟の審査・選考を行う。浜松市が加盟を予定している音楽分野の都市には、ボローニャ（イタリア）、アントワープ（ベルギー）などがある。

\* スポーツツーリズム：プロスポーツ観戦。マラソン、ウォーキングなどスポーツイベントへの参加、スポーツ合宿などを目的とし、開催地周辺の観光を組み合わせた旅行スタイル。



## ⑦地方自治・都市経営

浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿（30年後）

【実現を目指す1ダースの未来：01～12のすべて】

- ◆ 協働による持続可能な都市経営を推進し、全国をリードする自立した基礎自治体になっている。



10年後の姿（政策の柱）

- ◆ 協働に関わる多様な主体が連携し、協働による質の高い市民サービスが提供されている。
- ◆ 公共インフラの整備・維持・管理に民間活力の導入が進んでいる。

### 10年後の姿の実現に向けて

#### --- これまでの取り組みを強化 ---

市民、市民活動団体、企業など、多様な主体との協力・連携体制を築くため、行動力のあるひとづくりや各主体を結ぶ中間支援組織の育成など、活動しやすい環境づくりを進めます。

人財や財源など限られた経営資源を選択と集中により、効果的・効率的に配分して、事業の見直しを進めるとともに、公共施設などのファシリティマネジメント<sup>\*</sup>や財源の確保、規律ある財政運営など、自立性・自律性を高めて、不断の行財政改革を進めます。

また、持続可能な都市経営に向けて、適応性・専門性の高い職員の育成を行い、社会環境の変化に柔軟に適応できる組織づくりを行います。

#### --- 未来に挑戦する取り組み ---

協働する市民などが持てる力を最大限に発揮できるよう、連携を強化し、政策形成過程、財政状況などを分かりやすく情報提供するとともに、行政情報のオープンデータ<sup>\*</sup>化を進めます。

また、行政と民間事業者が連携するPPP<sup>\*</sup>などにより、民間事業者の持つ、資金や資産、ノウハウなどを施設整備や市民サービスに活かします。

さらに、UCLG ASPAC<sup>\*</sup>などの国際機関との連携を通じ、世界の諸都市とつなぐことで、

<sup>\*</sup> ファシリティマネジメント：企業・団体などが保有・使用する全施設資産や利用環境を経営戦略的視点から、総合的かつ統括的に企画、管理、活用する経営活動のこと。アメリカで生まれた新しい経営管理方式。

<sup>\*</sup> オープンデータ：行政の保有する公共データのうち、機械判読に適したデータ形式で二次利用が可能な利用ルールによって公開されたデータのこと。

<sup>\*</sup> PPP：Public-Private Partnership（公民連携）。公民が連携したパートナーとして行う事業形態のこと。PFI：Private Finance Initiative や指定管理制度、公設民営など、様々な手法がある。

<sup>\*</sup> United Cities and Local Governments Asia Pacific Regional Section（都市・自治体連合アジア太平洋支部）。世界最大の自治体の連合組織の支部。

ビジネスや文化の交流などの種をまき、世界から注目される創造都市を目指します。

## 基本政策の実現に向けた取り組み

(基本政策)

### 市民と共に未来をつかむ都市経営

- ◆ 「浜松市未来ビジョン」の実現に向けて、適切な進捗管理を行います。
- ◆ 国・県から積極的に事務・権限や財源の移譲を受けるとともに、自立した基礎自治体である特別自治市の実現を目指します。
- ◆ 遠州地域、三遠南信地域の広域連携を進めて、圏域の一体的な発展を目指します。
- ◆ 様々なジャンルで活動する人などが集まり、創造性を刺激し合うことができる、寛容性のある交流空間づくりを進めます。
- ◆ 首都圏では、情報の収集・発信を通じた連携業務と企業誘致を進めます。
- ◆ 全職員が常に業務改善を考え、業務の効率化を図り、市民サービスを向上します。
- ◆ 多くの外国人市民が地域づくりやまちづくりに参画し、活躍できる環境を整えます。
- ◆ マイナンバー<sup>\*</sup>の普及により、国の行政機関や地方公共団体などと連携して、行政サービスを向上します。
- ◆ ICTを活用した電子申請などで可能な手続きを増やします。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ ソーシャルメディア<sup>\*</sup>を利用した市民同士が議論する場から、集約された意見を市政に反映します。
- ◆ アーティストやクリエイターが市内で活発に活動し、まちづくり、市民活動、創造産業に深く関わることができる環境づくりを進めます。
- ◆ 必要とする市政情報を市民が情報端末で受信できる環境を整備します。
- ◆ 諸外国の都市や国際機関などと連携するとともに、都市ブランドの確立と発信や交流拡大を促進します。
- ◆ 「出世の街 浜松」のブランドイメージを国内外に定着させます。

(基本政策)

### だれもがいきいきと暮らせる市民主体の地域社会の実現

- ◆ 協働により、市民の公共への関心、自治意識を高め、市民主体で社会的課題が解決できる環境づくりを進めます。
- ◆ 協働の推進に向け、NPOの支援、人材の育成などを担う中間支援組織を育てます。
- ◆ 協働センターを核として、市民主体のまちづくりを進めます。
- ◆ 都市部と中山間地域の交流を促進することで、移住者の増加につなげます。
- ◆ 市民の様々な特性や生活習慣の違いなど、多様性の理解を進めることで心のユニバーサルデザインが実践される社会を築きます。
- ◆ 交通や道路、施設、情報などのユニバーサルデザイン化を促進し、多様な人々が社会参加しやすくなるように環境づくりを進めます。
- ◆ 男性も子育て・介護などに主体的に関わることで、育児休業・介護休業の取得率を上昇させ

<sup>\*</sup>マイナンバー：平成25年5月に成立した「番号法」など関連4法に基づく制度で、外国人を含むすべての市民に付番する唯一無二の番号。

<sup>\*</sup>ソーシャルメディア：インターネット上で利用者が情報を交換または共有することができるメディア。双方向性を重視しており、コミュニケーションを図るための機能を有しているという特徴がある。

- ます。
- ◆ 自治会、自主防災活動などに女性が幹部として参画するよう働きかけることで、地域での女性の活躍を推進します。
  - ◆ 企業がワーク・ライフ・バランスの重要性を認識し、個々の企業の実情に合った自主的な取り組みを行うための環境づくりを支援します。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ NPO が信頼性と専門性を高める活動を支援し、NPO への寄附が増えるような環境を整えます。
- ◆ 地域の需要に応じて、ソーシャルビジネス、コミュニティビジネスなどが育つ環境づくりを進めます。

(基本政策)

## 人的・制度的運用の推進による都市経営の基盤づくり

- ◆ 適正な組織体制と定員管理のもと、効率的で効果的な都市経営を行います。
- ◆ 社会環境の変化に柔軟に対応できる職員を育成します。
- ◆ 多様化・高度化する行政課題や法的トラブルに適法かつ適正に対応するため、法務研修を充実することで、職員の法務能力の向上に取り組みます。
- ◆ 公文書管理と情報公開制度の適正な運用を行い、市政の透明性を確保します。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 民間による新たなビジネスやサービスの創出を目指して、行政情報を二次利用可能なオープンデータとして提供します。

(基本政策)

## 将来像を実現する財政運営、財産管理、財源確保の推進

- ◆ 財源の確保や規律ある財政運営を行い、時代の変化に適應できる財政構造への転換を進めます。
- ◆ 選択と集中による予算の重点配分と将来への投資を行います。
- ◆ ファシリティマネジメントの考え方にに基づき、資産の総合的・総括的な管理を推進し、広域的な利用など、柔軟に資産を活用します。
- ◆ 施設の長寿命化を行うとともに、保有財産の売却などにより、新たな財源を確保します。
- ◆ 公共建築物の省エネルギー化とユニバーサルデザイン化を推進します。
- ◆ システムによる管理を進めて、劣化状況に応じた公共建築物の適切な修繕を行います。
- ◆ 電子入札により、事務の効率化を図り、同時期の複数入札を可能にして、競争性を高めます。

### --- チャレンジプロジェクト ---

- ◆ 企業などとの新たな連携により、資金、資産、ノウハウを活用した施設整備や公共サービスの提供を推進します。
- ◆ 国・県・市町村間の税関連情報の共有と申告・申請の電子化により、効率的な課税・収納事務を行います。



# ◆ 政策体系

## - 政策体系について -

分野を構成するすべての政策を掲載しています。

政策は、「政策の柱(分野の 10 年後の姿(理想の状態))」－「基本政策(部局レベルの政策)」－「政策(課レベルの政策)」のつながりとなっています。

## ① 産業経済

(政策の柱)

- ◆ 輸送用機器関連産業に次ぐ新たなリーディング産業が集積し、持続可能な地域経済が確立している。
- ◆ 来訪者が浜松の魅力とおもてなしを実感し、リピーターが増えている。
- ◆ 多様な担い手による付加価値の高い農林水産業が行われている。

基本政策	政策
世界の一步先を行く産業・サービスの創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 新産業の創出と既存産業の高度化による活力ある地域経済の実現</li> <li>➢ 海外需要を取り込み、国内事業の活性化を図るため中小企業の海外展開を促進</li> <li>➢ 企業誘致の推進による産業集積の促進</li> <li>➢ 新規創業や新事業展開の促進</li> <li>➢ 魅力ある都心づくりと商業振興</li> <li>➢ 観光・コンベンションの振興による地域経済の活性化</li> <li>➢ だれもが働きやすい労働・雇用環境の整備</li> </ul>
作業から経営に！ 変革を遂げる農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 農業参入機会の創出による担い手の確保</li> <li>➢ ICT を活用した魅力あふれる農業への変革</li> <li>➢ 生産基盤の安定による農業振興</li> <li>➢ 産業と市民活動による担い手の確保</li> <li>➢ 適切な伐採と流通の活性化</li> <li>➢ 森林管理を通じた環境対応社会への貢献</li> <li>➢ 適切な資源管理による水産業の振興</li> <li>➢ 漁港などの基盤整備による水産業の振興</li> <li>➢ 地元水産物の消費の活性化</li> <li>➢ 卸売市場の活性化による市民の食生活の安定</li> </ul>
—	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 優良農地の確保と農業生産力の向上</li> </ul>

## ② 子育て・教育

(政策の柱)

- ◆ 子どもたちの成長を第一に考えた地域社会のサポートにより、仕事と子育てが両立できる環境が整っている。
- ◆ すべての子どもたちは、互いの個性を認め合い、夢と希望を持って学び、生きる力を身に付けている。

基本政策	政策
子どもの育ちを支え、若者の自立を応援するまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 妊娠・出産を応援するための環境づくり</li> <li>➢ 子どもが健やかに育つ環境づくり</li> <li>➢ 幼児教育・保育施策の推進と施設の管理運営</li> <li>➢ 子どもとその家庭に対する相談援助</li> <li>➢ 若者の自立を促す環境づくりの推進</li> </ul>
市民協働による未来創造への人づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 夢と希望を持ち続ける子どもの育成</li> <li>➢ これからの社会を生き抜くための資質や能力の育成</li> <li>➢ 自分らしさを大切にする子どもの育成</li> <li>➢ 園・学校や教師の力の向上</li> <li>➢ 家庭や地域の力を生かした取り組みの推進</li> <li>➢ 一人一人の可能性を引き出し、伸ばす取り組みの実践</li> <li>➢ 子どもの生活や学びを支える教育環境づくり</li> </ul>

### ③ 安全・安心・快適

(政策の柱)

- ◆ 災害、犯罪、事故などの危険から、自分の命と財産を自分で守る意識を身に付けている。
- ◆ 居住エリアの集約化などが進み、コンパクトなまちづくりが進んでいる。

基本政策	政策
みんなの力で自然災害から生き残る	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ みんなの力で自然災害から生き残る</li> </ul>
安全で安心して暮らせる持続可能な地域社会づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 地域防犯の向上</li> <li>➢ 市民安全の確保</li> <li>➢ 安全・安心な消費生活の推進</li> <li>➢ 消費者教育の推進</li> <li>➢ 戸籍・住民基本台帳・印鑑登録等窓口事務の適切な執行</li> <li>➢ 斎場・墓園・墓地の整備推進</li> </ul>
市民が集う活力ある都市づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 集約都市づくりの推進</li> <li>➢ 開発と保全が調和する土地利用の推進</li> <li>➢ はままつ流の多様なくらしに対応した「安全・安心・快適」な交通を目指して</li> <li>➢ 安全・安心な市街地の形成</li> <li>➢ 都心の都市機能の強化</li> <li>➢ 安全・安心な居住環境への誘導</li> <li>➢ 市営住宅の既存ストックの活用</li> <li>➢ 緑化推進・緑地保全</li> <li>➢ 都市公園・緑地の整備</li> <li>➢ 動物園の再生</li> </ul>
安全な生活基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 効率的な道路・河川管理</li> <li>➢ 快適な道路・川づくり</li> <li>➢ 交通安全対策</li> <li>➢ 防災体制の強化</li> </ul>
いつでも、どこでも迅速的確に対応する消防・救急体制づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 消防施設の最適化、人材育成の充実</li> <li>➢ 消防団の防災体制の充実</li> <li>➢ 火災予防体制の充実、火災による被害の軽減</li> <li>➢ 通信・指令体制、救急体制、航空消防体制、消火・救助体制の充実強化</li> </ul>
安全な水と快適な生活、社会環境を水循環で支える上下水道事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 安全な水を確実に届け続ける浜松の水道</li> <li>➢ 未来へつなぐ快適な都市の暮らしを強固に支え続ける浜松の下水道</li> </ul>

### ④ 環境・エネルギー

(政策の柱)

- ◆ ごみの減量や資源化、自然環境の保全に取り組み、環境負荷の少ないライフスタイルが定着している。
- ◆ 再生可能エネルギー等が広く導入されるとともに、建物などのエネルギーの最適利用が進み、エネルギー自給率が高まっている。

基本政策	政策
環境と共生した持続可能な社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 環境に配慮したくらしの定着と自然と共生するまちづくり</li> <li>➢ 豊かで安全・健康で快適な環境づくり</li> <li>➢ 環境に配慮した資源循環型社会の構築</li> <li>➢ 安全・安心で安定したごみ・し尿等の処理</li> <li>➢ 不法投棄対策の推進</li> </ul>
再生可能エネルギー等の導入と省エネルギーの推進によるエネルギー自給率の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 再生可能エネルギー等の導入</li> <li>➢ 省エネルギーの推進</li> <li>➢ エネルギー関連ビジネスの創出</li> </ul>

## ⑤ 健康・福祉

(政策の柱)

- ◆ 地域での支え合いの仕組みづくりが進んでいる。
- ◆ 病気の発症や重症化を予防することにより、健康寿命が延びている。

基本政策	政策
人々の「つながり」をつくる社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 超高齢社会への対応</li> <li>➢ すべての人が安心していきいきと暮らすことのできる地域福祉の推進</li> <li>➢ 適正な生活保護扶助費の給付</li> <li>➢ 超高齢社会における介護保険事業の健全で安定した運営</li> <li>➢ 国民健康保険事業の健全で安定した運営</li> <li>➢ 障がいのある人のライフステージに応じた支援の推進</li> </ul>
人々の「心身の健康と生活」を守る医療の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 生涯にわたる健康づくり</li> <li>➢ 安全・安心な医療の提供</li> <li>➢ 地域医療・地域包括ケアの推進</li> <li>➢ こころの健康づくりの推進</li> <li>➢ 地域医療に貢献できる有能な医療スタッフの育成</li> <li>➢ 保健予防と食の安全対策の推進</li> </ul>

## ⑥ 文化・生涯学習

(政策の柱)

- ◆ 音楽などの芸術をきっかけとして新たな文化や産業が創出されている。
- ◆ 多様な歴史・文化による豊かさやスポーツによる喜びを市民が実感している。

基本政策	政策
感動のある生活、歴史・文化・スポーツによる豊かさの創造	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 新しい価値が生まれる創造都市の実現</li> <li>➢ 生涯スポーツを楽しむ機会の拡大</li> <li>➢ 生涯学習を享受できる機会の充実</li> <li>➢ 地域の文化遺産の継承</li> <li>➢ 地域の文化遺産の保全・活用</li> <li>➢ 芸術・文化の拠点の創造と発信</li> <li>➢ 美術館の魅力の創出</li> <li>➢ 知の拠点としての図書館機能の拡大</li> </ul>

## ⑦ 地方自治・都市経営

(政策の柱)

- ◆ 協働に関わる多様な主体が連携し、協働による質の高い市民サービスが提供されている。
- ◆ 公共インフラの整備・維持・管理に民間活力の導入が進んでいる。

基本政策	政策
市民と共に未来をつかむ都市経営	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 秘書・表彰業務の推進</li> <li>➢ 「浜松市未来ビジョン」の実現に向けた総合計画の推進</li> <li>➢ 基礎自治体としての自立</li> <li>➢ 創造都市の推進</li> <li>➢ 戦略拠点の連携強化</li> <li>➢ 持続可能な都市経営の推進</li> <li>➢ 市民主体のまちづくりを支える広聴広報の好循環</li> <li>➢ 世界を含めた都市間競争を勝ち抜くシティプロモーションの展開</li> <li>➢ 世界とのつながりと多様性を生かした都市の活性化</li> <li>➢ 行政サービスが誰でもどこでもいつでも受けられる電子自治体の推進</li> </ul>
だれもがいきいきと暮らせる市民主体の地域社会の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 市民一人ひとりが活躍する市民協働の推進</li> <li>➢ “まち”と“むら”をつないで実現する中山間地域の振興</li> <li>➢ 自由な選択の実行が保障されたユニバーサル社会の実現</li> <li>➢ 一人ひとりが自己実現できる男女共同参画の推進</li> </ul>
人的・制度的運用の推進による都市経営の基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 適正な組織体制と定員管理</li> <li>➢ 職員の育成</li> <li>➢ 政策法務の推進</li> <li>➢ 職員の健康管理と職場環境の安全管理</li> <li>➢ 行政情報の提供・公開</li> </ul>
将来像を実現する財政運営、財産管理、財源確保の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 将来を見据えた持続可能な財政運営の維持</li> <li>➢ ファシリティマネジメントの推進</li> <li>➢ 安全・安心で利用しやすい公共建築物の提供</li> <li>➢ 工事・物品の適正な契約</li> <li>➢ 技術職員の技術力向上</li> <li>➢ 公平公正・効率的な課税と収納</li> </ul>
—	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 会計管理運営業務の推進</li> <li>➢ 公正かつ適正な選挙の実施</li> <li>➢ 適正かつ公平中立な人事行政運営の推進</li> <li>➢ 行財政運営に対する監査・指導の推進</li> </ul>







浜松市

浜松市未来ビジョン  
第1次推進プラン

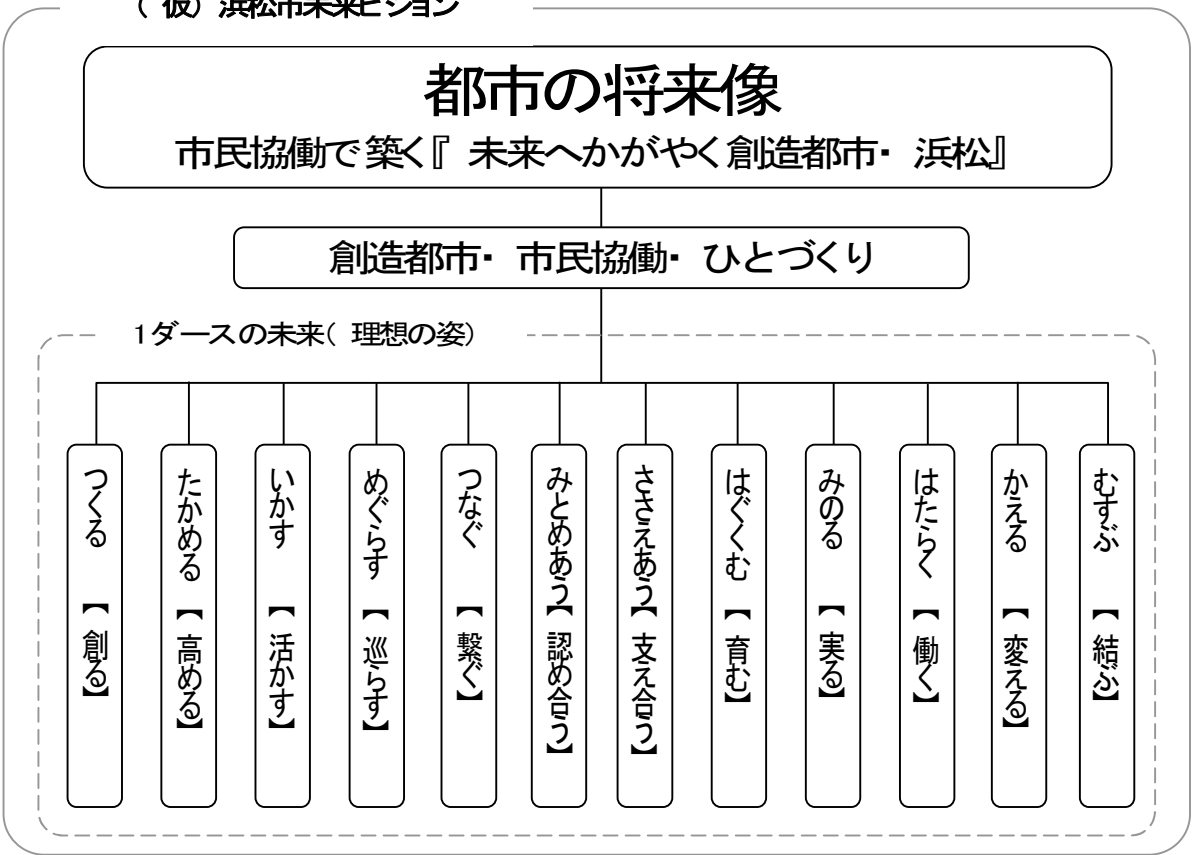
---

発行：浜松市

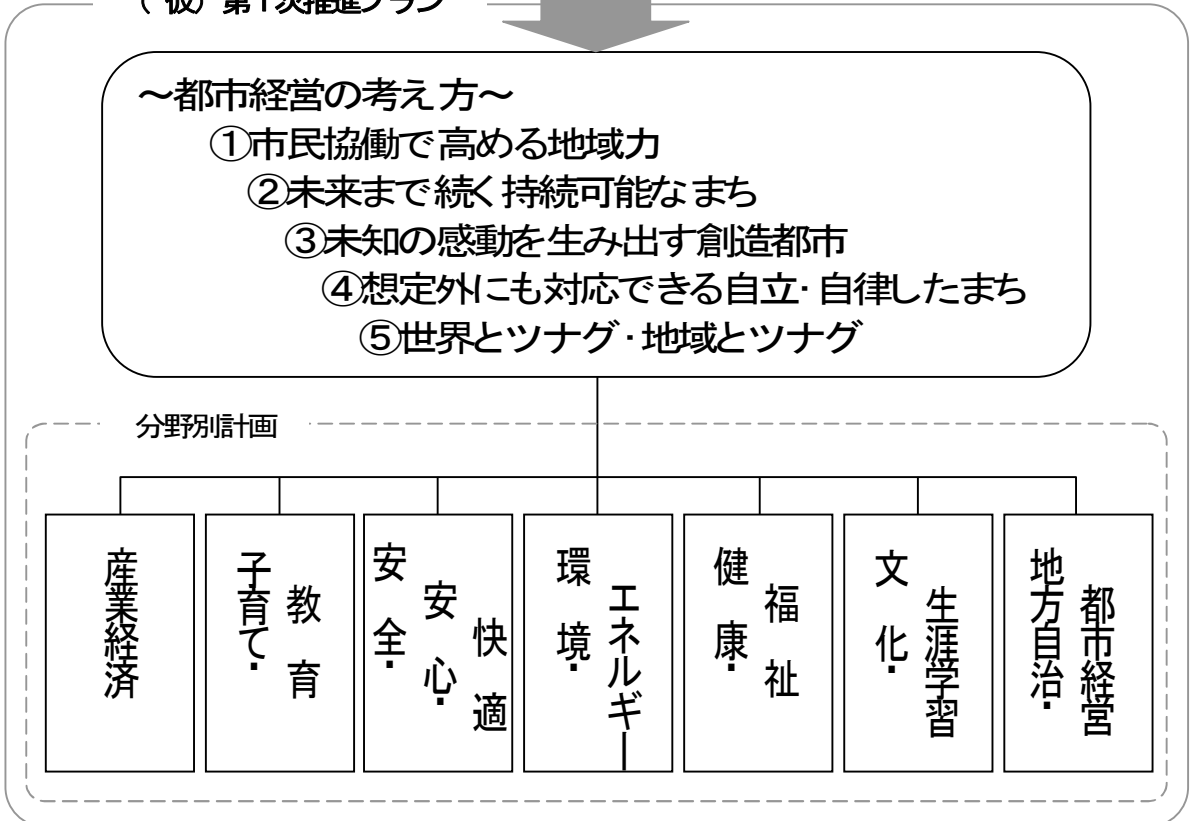
編集：浜松市企画調整部企画課

# ◆ 計画体系図

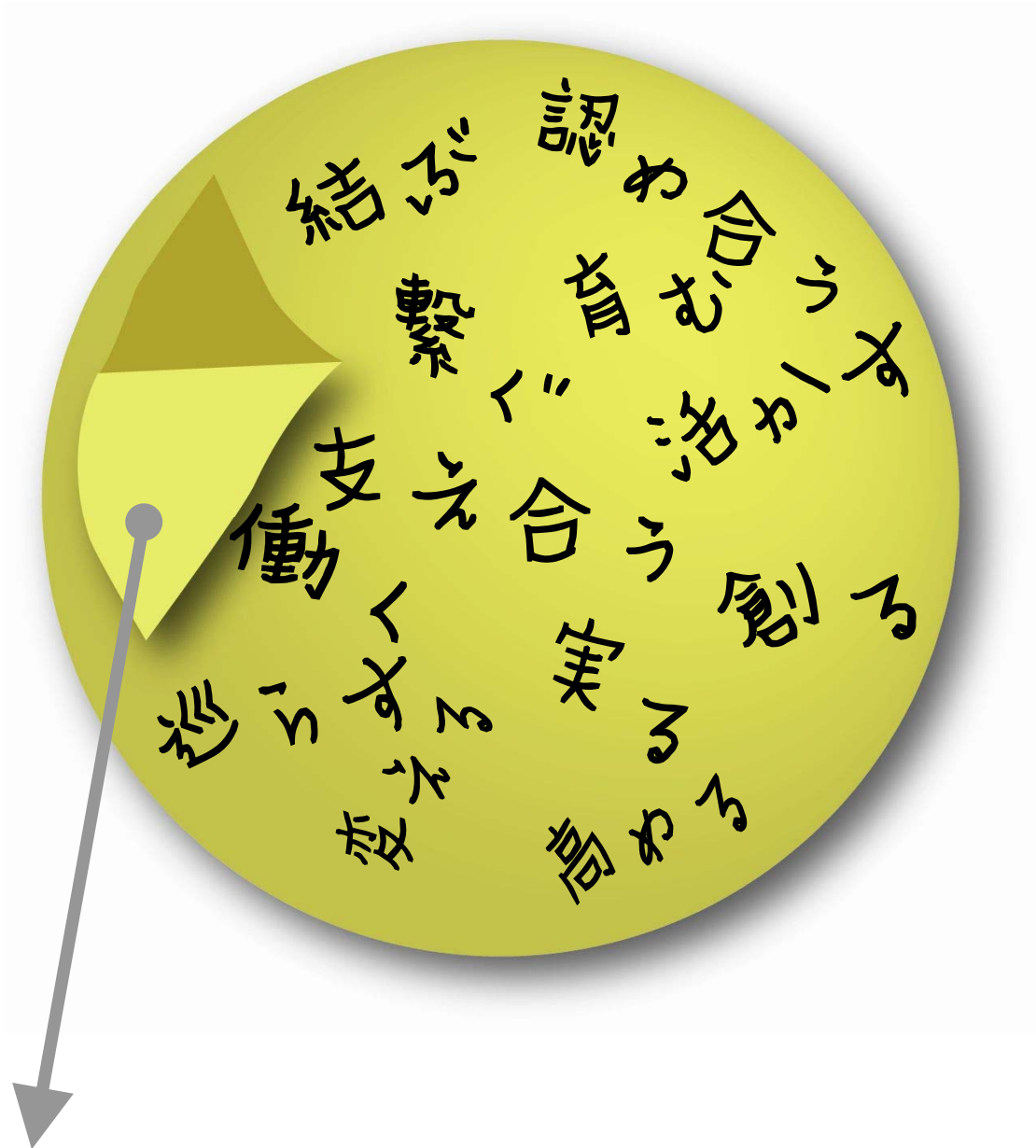
(仮) 浜松市未来ビジョン



(仮) 第1次推進プラン



## 球体は、都市の将来像



球体を包む膜が、「創造都市・市民協働・ひとづくり」

球体の中に1ダースの未来が溶け込んでいる。

球体をのぞき込むと、見る角度により

「支え合う」「実る」などが見える。

# ◆ 数値目標

## 総合

- 住んでいる地域が住みやすいと思う人の割合



平成 26 年度市民アンケート調査の設問「住んでいる地域が住みやすいと思いますか」において、思う(1)→思わない(5)の 5 段階評価で、1 又は 2 と回答した市民の割合

- 仕事と生活の調和が取れていると思う人の割合



平成 26 年度市民アンケート調査の設問「仕事と生活の調和が取れていると思いますか」において、思う(1)→思わない(5)の 5 段階評価で、1 又は 2 と回答した市民の割合

指標項目	平成 26 年度	今後の方向性	平成 36 年度
○○○○	50%	→	50%
○○○○	50%	↑	70%

合計特殊出生率、未婚率、転入率、1 人当たり市民所得

## ① 産業経済

- 満足のいく雇用機会に恵まれていると思う人の割合



平成 26 年度市民アンケート調査の設問「満足のいく雇用機会に恵まれていると思いますか」において、思う(1)→思わない(5)の 5 段階評価で、1 又は 2 と回答した市民の割合

指標項目	平成 26 年度	今後の方向性	平成 36 年度
○○○○	50%	→	50%
○○○○	50%	↑	70%

市民総生産額、製造品出荷額、事業所新設数、法人事業所数、有業率、女性有業率、高齢者有業率、完全失業率、若者完全失業率、就業率、有効求人倍率、外国人宿泊者数、観光交流客数、中間管理機構を活用した農地の転貸成立、漁協の事業取扱高、FSC 森林認証面積、FSC 認証木材の出荷量、耕作面積(米)、JA 出荷取扱量

## ② 子育て・教育

### ● 子どもを生き育てやすい環境にあると思う人の割合



平成 26 年度市民アンケート調査の設問「子どもを生き育てやすい環境が整っていると思いますか」において、思う(1)→思わない(5)の 5 段階評価で、1 又は 2 と回答した市民の割合

指標項目	平成 26 年度	今後の方向性	平成 36 年度
○○○○	50%	→	50%
○○○○	50%	↑	70%

保育所定員数、放課後児童会定員数、不登校児童生徒率、大学進学率

## ③ 安全・安心・快適

### ● 自分の生命と財産は自分で守らなくてはならないと思う市民の割合



平成 26 年度市民アンケート調査の設問「自分の生命と財産は自分で守ることが基本であると思いますか」において、思う(1)→思わない(5)の 5 段階評価で、1 又は 2 と回答した市民の割合

指標項目	平成 26 年度	今後の方向性	平成 36 年度
○○○○	50%	→	50%
○○○○	50%	↑	70%

耐震化率、家具転倒防止の実施率、7 日以上の水・食料の備蓄率、10 万人当たり刑法犯認知件数、10 万人当たり交通事故発生件数、1 万人当たり出火件数、自治会加入率、拠点の区域内実容積率、DID、地域における防災訓練の実施率、救急搬送時間

## ④ 環境・エネルギー

### ● 環境に配慮して生活していると思う人の割合



平成 26 年度市民アンケート調査の設問「環境に配慮した生活を送っていると思いますか」において、思う(1)→思わない(5)の 5 段階評価で、1 又は 2 と回答した市民の割合

指標項目	平成 26 年度	今後の方向性	平成 36 年度
○○○○	50%	→	50%
○○○○	50%	↑	70%

一般廃棄物リサイクル率、1 人当たりエネルギー消費量、エネルギー(電力)自給率

⑤ 健康・福祉

● 医療や介護が必要になっても暮らしやすいまちであると思う人の割合



平成 26 年度市民アンケート調査の設問「医療や介護の体制が整っているまちだと思いますか」において、思う(1)→思わない(5)の 5 段階評価で、1 又は 2 と回答した市民の割合

指標項目	平成 26 年度	今後の方向性	平成 36 年度
○○○○	50%	→	50%
○○○○	50%	↑	70%

障害者実雇用比率、1 人暮らし高齢者率、10 万人当たり自殺者数、平均寿命、基本健康診査受診率、歯科検診受診率、ささえあいポイント事業におけるボランティア登録者数

⑥ 文化・生涯学習

● 生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心が満たされていると思う人の割合



平成 26 年度市民アンケート調査の設問「生涯学習施設や図書館などにより、知的好奇心を満たす環境が整っていると思いますか」において、思う(1)→思わない(5)の 5 段階評価で、1 又は 2 と回答した市民の割合

指標項目	平成 26 年度	今後の方向性	平成 36 年度
○○○○	50%	→	50%
○○○○	50%	↑	70%

1 日の休養・くつろぎ時間、1 日の趣味・娯楽時間、1 日のスポーツ活動時間、千人当たり社会教育費、千人当たり社会教育学級・講座数

⑦ 地方自治・都市経営

● 必要な行政情報が提供されていると思う人の割合



平成 26 年度市民アンケート調査の設問「必要な行政情報が提供されていると思いますか」において、思う(1)→思わない(5)の 5 段階評価で、1 又は 2 と回答した市民の割合

指標項目	平成 26 年度	今後の方向性	平成 36 年度
○○○○	50%	➡	50%
○○○○	50%	⬆	70%

過去 1 年間にボランティア活動に参加した者の率、市民協働により実施された多文化共生のイベント数、多文化共生の活動に携わる民間団体数、経常収支比率、実質公債費比率、市債残高(通常債)、将来負担比率、インターネット人口普及率、電子申請が可能な行政手続数、定員適正化



## 第5回 浜松市未来デザイン会議 議事録

平成26年5月24日（土）2時00分～3時56分

浜松市役所本館8階 全員協議会室

### 1 開 会

(事務局) ただいまから、第5回浜松市未来デザイン会議を開会します。進行は、会議のコーディネーター役をお願いしております、静岡文化芸術大学 根本学部長にお願いします。よろしくお願いします。

### 2 策定スケジュールについて

(根本学部長) みなさんこんにちは。休みでありますますが爽やかな季節になってきました。貴重な時間を割いていただきありがとうございます。今日もまた熱心に皆さんと議論できるよう努めて参りますので、よろしくお願いします。それでは早速お手元の次第を一緒に確認したいと思います。本日の議案としては、開会の後に、2、3、4が予定されていまして、各々に資料がございますので、資料の説明を事務局にいただきながら、順番に進めていきたいと思えます。それでは最初に、これは毎回確認してから議論に入るといいうやり方を取っていますが、この策定のスケジュールについて事務局から説明をお願いします。

(事務局) (資料2説明)

(根本学部長) ありがとうございます。年度も改まり、振り返りとどういふふうに向かっているかというのを確認いただければと思えます。いよいよ全体の流れもまとめを作る段階に入ってきたところかと思えます。では続きまして、議案の本題、今日は昨年度から議論を重ねて、事務局が庁内の調整、議会との意見交換等を経て、未来ビジョン基本構想の案が用意されています。これは昨年度からこのテーブル、またワークショップのようい形で何度も皆さんと意見を交わしてきました。そして案を2回くらいお出ししたかと思えます。その案に対してまた色々な意見や提案、そして行政内部での検討、議会での意見交換等々を経て本日の基本構想案として事務局が取りまとめていただいています。先程のスケジュールにもありましたように、これを今日更にいくつか意見交換を経まして、この後はパブリックコメント案という形で市民の皆さんから広く意見を募るといいうことを経て、10月くらいに最終案として固まるといいう説明だったかと思えます。

### 3 未来ビジョン（基本構想）案について

(根本学部長) 早速ですが これまでの議論に基づいて作られた案について事務局から説明をいただいて、その後また意見交換を進めていきたいと思えます。では説明をお願いします。

(事務局) (資料3説明)

(根本学部長) ありがとうございます。それでは早速本日の修正を施した案を巡って、皆さんからご意見をいただければと思えますが、今ありましたように事務

局からは、色々なご意見を頂戴して調整する中で、目次のページの将来像の項目の順番、それからもう一つは、1ダースの未来（理想の姿）の番号を付しているということについて、番号を付けるのか或いは番号を外す、それ以外の選択とか、その辺にお知恵を拝借したいということがありました。最初にこの項目の順番とか並べ方について何かご意見はありますか。

(村田亜委員) 順番ということではなく、一度全体を見直した時に、都市の将来像と理想の姿というものの関連性が分かりにくいと感じる部分がありました。まず多分、「未来へかがやく創造都市・浜松」というのが一番大きな大テーマになっていて、その下に「創造都市」「市民協働」「ひとづくり」という3本柱があって、さらにその下に続く「理想の姿」が図的に考えるとあるかなと感じるのですが、関連性ということがまず一つ、例えば12個の分野が創造都市とか市民協働、ひとづくりにどのように関わっているのかが見えづらいということと、市民協働の意味に関して、企業や行政、市民という色んな関わり方があると思うのですが、創造都市、市民協働、ひとづくりの主体が誰かということがはっきりと分かりにくくて、この将来像と理想の姿を誰に訴えたいのか分かりにくいので、そういう関連性を考えながら目次を作った方が良いかなと感じています。

(根本学部長) 例えばこんなふうにしたらどう？というようなことはありますか。

(村田亜委員) 実は資料を作ってみました。のちほど行政の方にお渡ししたいと思います。本当に素案なので、また行政の中で考えていただきたいなと思います。

(根本学部長) では資料はのちほど頂戴できますか。この部分をこういうふうにと簡単に言っていたくことがあればお願いします。

(村田亜委員) 例えば都市の将来像ですが、未来を創造する都市浜松として、その下に創造都市、市民参画、文化都市という位置付けにして、例えば創造都市であれば企業、市民参画であれば市民、文化都市であれば行政というように、そこに3つの柱を作って、その中に1ダースという、どこにも関連するというで話し合ってきたと思うので、そこを敢えて直接線で結び付けるのではなくて、3つの企業・市民・行政、どれにも関われるということで作っていただくのはいかがかと思います。

(根本学部長) 他の皆さんからいかがでしょう。今のご意見を私なりに斟酌すると、上から順番に文字が並んでいるというのではなくて、ダイアグラムというか概念図的なものが付くと分かりやすいのではないかと思うのが一つです。それからもう一つは一對一の対応ではない、どの項目も創造都市に関連していたり、市民協働に関連したりするから、あまりかっちり線と線でつないで縦割りになってしまうような示し方もまた逆にいけないだろうと、それから3点目は個人的な意見ですが、3つの将来像を、そういう意味では、創造都市は企業、市民協働は市民というのも一つの提案ですが、できればやはり創造都市というのは、企業も市民も行政も3つとも全部関わってくるという意味で3つまとめてあるというふうなことではないかと斟酌しますが、その辺もまた皆さんと議論を深めていきたいと思えます。後はいかが

でしょうか。後半の方ですが、1から12まで数字が付いたからといって必ずしも政策的な優先順位が付いたというふうに解釈しなければいけない訳ではないですよ。これはあまりそこまで神経質にならなくても良いかなと。さっき申しましたようにダイアグラムのようなものを付ければ、これは優先順位ではないというメッセージは伝わるのではないかと思います。あとは将来像を3つで、これもどっちが上でどっちが下で、というのは厳密ではない、松竹梅でどっちが上でどっちが下というように、そこまで神経質にならなくても良いかなと思いますが、何かご提案があればいかがでしょうか。

(田中委員)

30年後の都市の将来像というのが出ていますので、これについての創造都市、それから市民協働、ひとつづくりというのは、それぞれ関係があるから、あまり細かく考えずに、下のも番号を付けた方が分かりやすいと思います。順番にはこだわらないと先ほど先生がおっしゃいましたが、こだわらなくても結構ですが、折角「市民協働で築く『未来へかがやく創造都市・浜松』」という大目標があるのですから、創造都市を先にするか、市民協働を先にするか、ひとつづくりを先にするかというと、枠にはめるような気がしますので、このままの流れでいって、どこからやっていくかというのは、その場で変えていけば良いのではないかと思います。

(根本学部長)

それでは、ちょっと前にしゃしゃり出るような発言で申し訳ありませんが、先ほど言いましたように、絵柄にする、二次元にするというのは結構メリットがあって、よくラウンドテーブル、丸テーブルというのをやりますよね。ですからこの3つをダイアグラムで、3つの輪みたいにそれから12個も12個が時計の文字盤のように並ぶとか、或いは横に並べるとかそういう示し方によって、決して優先順位ではないというメッセージを伝える方法はあるかと思います。ですからダイアグラムのデザインをちょっと工夫してもらおうということではいきませんか。後でまたご意見があれば頂戴したいと思います。

それでは続けて中身の話に入っていきたいと思います。今回修正を施した所、それ以外の所も含めて新しくご提案なりご意見いかがでしょうか。

(前田委員)

今日の本題からは多少ずれてしまうかもしれませんが、これまでのデザイン会議の流れを自分なりに振り返ってみて、私たちの意見を行政の方たちが汲んでいただいて、素晴らしい冊子ができあがっていると思います。ただこれだけ有識者の方々がこの場に集まっているので、細かい文脈の修正や、文章のニュアンスの訂正だけでは、多少さみしいような気がしています。最初に大命題として、「未来へかがやく創造都市・浜松」市民協働で築くというのが書いてあり、一行目が「未来の浜松をつくるのは、私たち市民です」というのが一番にきています。私たち市民、私たちが勿論市民に含まれるので、市民の意見というのをもう少し深い所まで汲み取って、今後のデザイン会議の内容を議論していければ、より良いものができると思います。いかがでしょうか。

(根本学部長)

はい、とても大事なご指摘だと思います。具体的にどうですか、進め方のお話なのか或いは冊子になっている文書上のお話なのか、その辺はどうですか。ちょっと言葉を足していただけますか。

(前田委員)

進め方に関してもそうですが、今5回ということで半ばを過ぎ、あと3回で自分たちの意見を汲み取っていただいて7回で終わりというのは、私たちも関わった手前、それで手を引くというのはちょっとさみしい気がするというのが一点です。内容に関してですけれども、細かい部分ではなくて、もう少し本筋の部分まで自分たちの意見を汲んでいただく場があると良いと思います。もうこれはすでに冊子としてここまで完成されているので、これから差し戻して訂正ということは言いませんが、今後にもし自分が言うような意見を汲んでいただいて、機会を作っていただくようなことを考えていただければありがたいと思います。

(根本学部長)

ありがとうございます。今のご提案ですが、たまたまコーディネーターを仰せつかりました私が、以前民間のコンサルにいたり、大学の教員になったりして、色んな自治体のこういうビジョンづくりに携わるチャンスがありました。その経験から申しますと、おっしゃるように色んな人の意見を調整して冊子として統一性のあるものにすればするほどディテールが見えなくなってしまう。或いは折角集まって熱く議論したものが、ある時点で、はいご苦労様でした、で終わりになってしまう、これは残念だなというのは全国に色々とあります。例えばこの冊子として仕上げていくものは非常に贅肉を落として読みやすいものにしていくのですが、今後の行政運営の中で他所の自治体がやっている例で言うと、100人会議とか、500人会議とか、或いはビジョンを印刷して冊子になったらそれで終わりじゃなくて、そのビジョンを推進していくためのビジョン推進委員会とか、何かそれをフォローしていく手続きなどを後につけるという運営をしているケースも多々あります。予算や議会の承認などありますけれども、このテーブルとしては、そういうふうにして冊子ができあがった後もそのディテールについての勉強会、つまり行政、市民、専門の方が一緒に入って、引き続きワークショップのようなことを続けていくとか、或いはこのビジョンを見守っていくためのそういったビジョン推進委員会とか協議会をやったらどうですかということを提案事項としてあげておきたいと思いますがいかがでしょうか。

(酒井委員)

隣の静岡市さんで、「ボイス・オブ・しずおか市民討議会」というのが行われていまして、それは手前味噌ですが青年会議所が2007年くらいから東京JCが中心となって広げていったもので、たまたま静岡さんが採用されたものですが、これは無作為に抽出された1500人の皆さんに静岡市から参加の案内状を出して、参加申込書が100とか200とか戻ってきてアンケートを配り、実際の皆さん方の地域での要望や考えを聞くというのをやられています。この中には単純に市の方から出すだけではなくて、実際に呼んで、行きたいです、と私たちみたいな形で選ばれて実際に内容に関して討議するという場があったりするのですが、そういったものを浜松市でも採用して頂いたりすると、当然議会の皆さんの考え方や予算面等々1500名に80円で配るといくらになるのかなというのも当然出てくると思うんですけど、同じ政令指定都市として県内にそういったこともありますので、参考にするのはいかがかなと感じました。

(根本学部長)

ありがとうございました。今のところは最終的にビジョンが固まった後、どういうふうに市民参加であったり、携わった人のもっと幅の広い広がりというものを担保するかということであったりの議論ですが、関連して

もう一つぐらい何か、それから座長の市長さんからも一言あればと思いますが、いかがでしょうか。

(鈴木市長)

はい、これはできて終わりということではなく、その後どうフォローしていくかというのは非常に大切な論点だなと今みなさんの意見を聞いて思います。ちょっと視点が変わりますが、最近皆さんも報道紙上でご覧いただいたと思いますけれども、増田 寛也さんの日本創生会議というところが、全ての日本の自治体の人口シミュレーションを出して、896つまり今の基礎自治体の半分で若い女性が半分以下になる、もうやっていけない自治体が、それを消滅可能性都市というふうに書かれていたのですけれども、これは大変衝撃的な波紋を広げています。私のところにも実は色々取材が来まして、浜松周辺はどうですかということで、幸いなことに浜松はそうなる前に周辺地域が全部合併して一つになったものですから、都市が消滅するような可能性があるようなところは現在ありませんので、今のところすぐそのような問題が生じるようなことはございませんとお話したのですけれども、その時感じたのは、我々は浜松の中のことだけずっと考えてきたのですが、おそらく今後日本的な課題として出てくるのは、自治体の枠を超えた連携とか地域間連携とか、既に今度の地方自治法の改正で、地方中枢拠点都市構想というのが出されています。比較的力量がある地方都市が、周辺の今後大変な状況になってくる自治体をカバーしていくという枠組みを作っていくという構想が出されています。おそらく自治体間、地域間の連携が今後、非常に大きな課題であり、比重を占めてくると思いますので、今からそういうのを盛り込むのは難しいので、具体的な推進の計画案を作る時にはそうしたことも意識しながらやっていかなければいけないのかなと、最近感じました。

(根本学部長)

はいありがとうございます。よろしければ論点をまとめておきたいと思います。今、市長さんのお話し、並びに直接にやりとりした内容は、未来ビジョンの次の推進プランに関わる部分があると思います。議論は順番に進めますが、ちょっと先取りして資料4の目次をご覧ください。自治体間の連携ということが今後、より一層重要な課題ではないかという市長さんからのご指摘がございました。それに関連する項目として、都市経営の考え方の①から⑤の⑤に広域連携という言葉が入っています。正確に市長さんがおっしゃったことが全部ここに入っているということではないので、またこれを色々バージョンアップしていかなきゃいけないのですが、それからもう一つは分野別計画の①から⑦の中の⑦地方自治・都市経営という項目があります。一般的に自治体のこういった中長期計画では、今回は30年後というビジョンがまずあって、そのビジョンの下に10年計画で、具体的な計画案がセットで付いてきます。具体的な計画案は5年毎、10年毎というふうに見直しながらやっていくというのが一般的です。資料4がそれに相当する訳ですが、大抵こういう計画は、⑦に相当する中に、ビジョンや計画を作って終わり、ではなくて、執行を評価しながら執行管理をしていく手続きや組織を定めましょうというのをここに書き込むのが一般的なやり方です。ですから折角ご提案をいただいたので、先程から出ていますように、計画推進のための委員会というのか、協議会というのか、或いはバーチャルなインターネットの中かも知れませんが、そういう推進体制を充実して作っていきましょうという提案としてこれを受け止めて、計画の中に盛り込んでいくと整理できるのではないかと思います。それからもう

一つは、ビジョンの段階で既に色んな議論をしたもののディテールがきれいに整理整頓されています。ビジョンはビジョンとして冊子を作るのですが、未来デザイン会議の議事録、あるいは議論の記録を市民の皆さんに公開していただいて、こんな広がり議論・調整を経た上でこれになったのだと分かるように、今も議事録は公開されていますけれども、一連の作業を終了するにあたって、こんなに広がりのある議論をしたんだよ、ということ情報を発信できるようにお願いをするということを考えます。よろしいですか。

では、引き続きましてビジョンの方の修正を経た内容について、中身についてまたご意見をいただきたいと思えます。いかがでしょうか。

(河原委員)

今、推進ということをおっしゃいまして、それは当然このビジョンができれば進んでいく訳ですけど、10ページにおやと思ったところがあるのでお聞きします。30年後はもう人口が減るということは、人口問題研究所の方で、衝撃的な数を出している訳ですので、増やすということは大変なことだと思えます。「不安なく子育てできる浜松では、合計特殊出生率が徐々に高まっています」とありますが、ビジョンですから、これは当然言葉としては良いと思うのですが、余程の施策の推進をしないとこれは難しいです。浜松でしかできないようなことができるのかどうかというのを含めて考えていただきたいと思えます。よくワーク・ライフ・バランス、男女共同参画と言いますが、愛情だけでこういうものは上がっていかない、妊娠と出産は女性しかできないことですから、心身ともに支援できるようなしっかりしたものを浜松で作上げていかないといけないと思えます。それでこのページの最後の方に「子どもが増えた気がします」とあるのですね。この言葉にどうも私は引っかけたのですが、増えた気がする、だから周りが愛情を注いでいけば子どもが増えますよというふうを考えられますけれども、先ほど申し上げたように少し具体的な推進する形を作っていたいただきたいと思えます。それからもう一つですが、次のページに高齢者について書いてあります。一つは見出しに60歳を過ぎるとカッコいい、となっています。今、色んなデータで高齢者というと65歳以上となっているのが多いと思えます。そして60歳を過ぎるとカッコいい、の次は65歳以上、次の行も65歳以上、それから、他のページもみんな65歳以上となっているのです。だからこの5歳の差をどうするのか。本文にないのに見出しに出ていることに引っかかりました。それからこの中に「まちなかに低所得者向けの住宅が用意される」だから低所得者高齢者をまちなかに集める訳ではないですが、そんなことをするのかと思えます。その他のページ、例えば2ページにも「居住エリアの集約化が徐々に進行して」インフラのことが書いてあって、その後「ライフステージに応じて 都市部から中山間地域まで最適な場所を選択して日々の暮らしを楽しむ」となっています。それから13ページにもやはりライフステージのことが書いてありまして、ライフステージに応じて都市部から中山間地域まで、最適な場所を選択し、生活を楽しんでいます」となっています。それでさっきのところに戻ると、高齢者は低所得者向けの住宅をまちなかに用意すると、ちょっと区別したというか、その関連が良く分からなかったのも、住宅エリアの集約化ということと、低所得者向けの住宅をまちなかにだけ用意するのかと、その点をお聞きしたいと思いました。その3点が気になりましたのでお話ししました。

(根本学部長)

ありがとうございます。三点目については、11ページの記述、都心にも用意される一方で、中山間地域で晴耕雨読もいいね、ということで書いている趣旨は、都心に行けということではなくて、都心に住みたい人は都心にも住める、郊外がいいなという人は郊外にも住める、という趣旨だと思います。それが間違った情報が伝わらないように書き方は工夫が必要かと思えます。必ずしもお年寄りには都心に行きなさいと書いてある訳ではないということは確認いただきたいと思えます。二点目、60歳と65歳これは表記上の事は考えた方が良くも知れませんね。それから一点目10ページですが、確かに愛情を持って見守っているだけでは簡単に出生率は上がらない。ですからおっしゃるように男性も女性もきちんと働く場所がある。しかもその働く場所はブラックではなくてちゃんと生活と社会のバランスを持って働くことができる、そして男女共同参画、そういったニュアンスがここにも少し、つまり子どもが育んで増えるということは単に愛情を持って見守っているだけでは駄目で、もっと具体的な、経済的な裏付けとかそういったことに繋がってわかるような記述を足すということではできると思えます。最後「気がします」というのはちょっと考えた方が良くも思えます。私が直す訳ではないので、事務局と相談して考えてみたいと思えます。

(村田昌委員)

実は今河原委員の意見を聞く前に手を挙げたので、今のお話を聞いて少し揺らいだ部分があるのですが、先ほど根本先生がおっしゃったように、多くの目を通してチェックが入れば入るほど文句がない文章になるけれど、人の心に響くものでもなくなるのだと思えます。外山委員がプロのコピーライターなのでお詳しいと思うのですが、もちろんこのページとこのページは言っていることが矛盾している、というのは事務的にチェックし直していただければいいのですが、記述の仕方については、今日こう思っても明日は違うというくらい変わってきますので、あまり長い時間をかけて議論しても、そのエネルギーだけの成果が出にくいのかなと思えます。さっき資料4の話を出していただきましたけれども、より具体的なことを議論する時に時間をかけた方が良くも思いました。

(根本学部長)

ありがとうございました。もっともなご意見ですね。でも折角休みを潰してご出席いただいているので、できるだけこの場でこれだけは言っておきたいということがあれば頂戴したいと思います。あといかがですか。

(長澤委員)

3ページの「つくる」の部分ですが、「アイデアを実現するために技術力を高め、技術力が高まることで新しいアイデアが生まれるといった連鎖」と書いてあります。こういった技術力を高めて実際に商売をしていくというニュアンスが入っていない気がします。例えば新しい市場を創り出すことによって世界経済を支えていくといったそんなニュアンスを入れていただけると良いなと感じたのと、もう一点、2ページの人づくりの部分の最後、「ひとモノ ことを循環させるサイクル」ということがあって、これはイメージということだと思いますが、サイクルということだと、Aという地点からまたAという地点に戻ってくるというイメージがあるのかなと思えます。新しい価値を生み出すということであれば、例えば「融合させるプロセス」というような前向きな表現の方が良いのではないかと感じました。

(根本学部長)           ありがとうございます。これは議事録に留めて改善版に活かしていきたいと思えます。後はいかががでしょうか。

(鈴木厚委員)           全体的なことですが、一つのデザインとして10年後、30年後という部分の中で、皆さんのご意見をお聞きしたいなと思っていたんですが、「人」と「モノ」的な部分ではあるけれども、こうなったらいいねというのが大分盛り込まれていると思うのですが、お金の部分について、この30年は、もっとコンパクトにというか、財政的にかからないようになっているのかというような観点がどこかに織り込まれていないと、理想だけ言っているような気がします。あと税金がもっと必要になりますよという方向で良いのか、それとも自分たちで色んなことをやっていくので、税金なんか少なくとも豊かに暮らせるようなデザインになっているのか、という人、モノ、金の流れというのをちょっと抑える文言というのか、お金の流れもこうなっていたらいいねという部分もどこかに織り込まれていると良いのではないかと思いました。

(根本学部長)           はいありがとうございます。では先ほどのご提案もありますし、今後この会の後追加のご意見、またパブリックコメントの時にも改めて委員の皆さんからご意見をいただける機会もあると思えますので、ひとまずこのビジョンの案については一旦ここで括りたいと思えます。その後資料4に基づいて、このビジョンの下で具体的に施策を展開していく議論に進みたいと思えますが、最後の委員のご提案にありました人、モノ、金、最近では経営学ではそれに情報というのを付けますが、奇しくもというか資料4の目次をご覧くださいと、ビジョンを受けてそれをどう実現するかというところに、都市経営というキーワードを今回は使っています。このことによって、人というのは市民・企業・行政が共に参加する、モノというのは、色んな場であるとか、地域資源、経営資源を共有する、そして財源、お金、そういったものを都市経営の中に多分きちんと書き込んでいく必要があると思えます。そういう意味ではビジョンの段階でも、これを実現するためには、具体的に人やモノや金そしてノウハウやナレッジという情報資源、地域資源を使って実現していくということをビジョンに一言書いておく。それを受けてこの推進プランの方で、具体的な都市の経営はどうするかということを書く、そんなふうにまとめていけたらと思うのですが、どうでしょうか。

## 5 基本計画案について

(根本学部長)           では次の資料4のビジョンを受けて、どう推進するかというところに今日は話を進めたいと思えますので、説明をお願いします。

(事務局)               (資料4説明)

(根本学部長)           はい、ありがとうございます。今度はビジョンの下での10年スパンの推進プランということで、このテーブルでは初めて出てきた資料かと思えます。全体の構成、それから都市経営という考え方、更には分野別の計画の記述の仕方、どこからでもよろしいので、ご意見頂戴できればと思えますが、いかががでしょうか。



(村田亜委員) ちょっと教えていただきたいのですが、例えば2番の子育て・教育ですが、この分野別計画というものは、例えば関係部署に関しての計画になるのか、それとも例えば2番で言うと、子育てに関しては子ども家庭部ですけど母親の就労についてはまた違う部が関連してくると思うのですが、この分野別計画というのは、この計画に沿って他方の部署も関連していく目標とか計画になるということでしょうか。

(根本学部長) もし行政が考えていることがあればお願いします。

(事務局) この分野別計画につきましては、各分野ということなので、当然ながら一つの部局だけという考え方ではなくて、子育て・教育ということを関連部署で考え方をまとめて、30年に向けて、まず10年をどうするかという形の中でこの計画ができあがっていますので、この10年の間に10年後の姿をどのようにやっていくかというところで関連部署の考えをまとめてあとご理解いただければと思います。

(村田亜委員) 10年後の姿の実現に向けてというところなのですが、私は子育て・教育の部分しか見ていないのですが、例えば最後の行の「音楽を中心とした芸術や地域の伝統行事などに触れる機会を設け、」という今も既にやっていて、ずっとやってきたことだと思うのですが、これは10年後の姿の実現に向けて、新たにやることというよりは今までやってきたことを書いているという感じがします。できれば新しいものを取り入れる、ちょっと具体的なものが思い浮かばないのですが、そういうものが入った方が良いのではないかと思います。他の分野では入っているかも知れないのですが、ちょっとここは気になったのと、あと10ページの政策体系ですが、基本政策と政策があって、2番のところは「まちづくり」に関する「環境づくり」に限定されているのですが、人づくりということに関する取り組みの推進として統一されているのですが、これは何か意図があるのかなというのと、他の分野のところにも言えるかと思うんですけど、例えばこの政策に関して、「子どもの生活や学びを支える教育環境づくりの推進」をするという目標は勿論大事だと思います。そういう社会になったら良いなどは思うのですが、その方法論というか、どういうふうな課程を辿ってそういうところに行きつくかというところは、この計画の中には入っていないのですが、別のところで提示されたり考えられたりするのですか。もしないのであれば、そういう方法論についてももう少し踏み込んで、検討いただければと思います。

(根本学部長) はいありがとうございます。この分野別のところは多分斟酌しますと、今日の案はまだ完成度の低い物だと思います。ですから、こういうふうにしたいですけどいかがですか、ではなく、例えばこんなふうに、こういうテーブルでいただくご意見は既にこうしたいと思っているのを直してくださいということではなく、むしろこういうふうに作りましょうというふうに受け止めていただければと思います。そういう意味では、いくつかありました取り組みの推進という語尾なんていうのもまだまだこれは変わっていくと思いますので、まだ固まっていないところではあります。それから計画のプロセスというところはとても大事なところで、多分具体的な計画に固まる際には、この子育て・教育は、A4で2ページで終わるボリュームではないと思いますので、おそらく目標だけを書くのではなく、あれをし

て、これをして、誰が何をやってということは当然書かれることだと思います。それから最初のご指摘の今日の書き方ですと、全部まとめてガチャっと書いてあるのですが、つまりこれまではこうしたけれども、新しくこのように変えますよという内容、それからこれは未来も着実に続けていくんですよという内容、それから新たにこういう施策を追加しますよ、こういうのが分かるようにきちんと書き分ける、これは子育て・教育だけではなくて他のところにも共通してそういうふうにしていただけると良いかなと思いました。あといかがでしょうか。

(外山委員)

全体的な話ですが、12項目の、1ダースの未来を作ってきて、こちらの推進プランの方の目次をみると、都市経営を合わせるとまた12個入っているのですが、ちょっと会議にずっと出ていた人でもこっちからこっちに資料がいく時に、どの理想の姿がどこに入っているのかというのがちょっと見えづらくて、で一番上の方に【実現を目指す1ダースの未来：01、02、10、12】など一気に4つの理想の姿が、この産業経済の一つのところに入ってくるとか、折角こちらで30年後の理想の姿を描いても、こちらの推進プランにくるときに、それが凝縮されるというか、凝縮という言い方よりもこぼれ落ちるところがいっぱいあるのではないかなと思っていて、そこからまた10年後の姿の実現に向けてという文章と、基本政策ではまたキャッチコピーが出ています。そうすることによって逆に、バックキャストिंगではなくフォアキャストिंगになっていくのではないかなと思っていて、バックキャストिंगであるなら、1ダースの未来が一番基準にあって、それに対してそこに行くには、この基本政策としてこの課だったらこういうことだよ、この課だったらこういうことだよ、強化分野とか継続分野として、この10年間はここを強化しましょうとか、ここはずっと30年間継続することだよという見出しみたいな置き方が分かりやすいかなと思いました。とにかくこの1ダースの未来が一つのことに対して、5つか4つとか入ってくると、多分委員の皆さんもこれを見て、自分が言った意見はどこに入ったのかが分かりにくいのではないかなと思いました。以上です。

(根本学部長)

ありがとうございます。ビジョンの12個の未来像と、推進プランの内容との関連性、例えばダイアグラムみたいなものを間にかませるというやり方があります。それはそれとして、重要なお指摘は分野別計画の項目の立て方は両方あり得ると思います。12個の未来で小見出しを立てるというやり方と、今回案にあるように、一般的に自治体の計画というと分野別になるのですね。どちらが分かりやすいかというのは私もちょっと難しいと思います。例えば1ダースの未来の一つ目の未来像というのは、何々部何々課ではこれをやりますという書き方ができるのですね。一方で市役所の福祉課っていうのは一体何をしているところなのですか、というふうにするとうまく分からなくなってしまいます。一長一短があると思います。ただそういうご指摘があるということで必ずこの目次立てでなければ作れないという訳ではないので、また検討していきたいと思います。あとはいかがでしょうか。

(河原委員)

今おっしゃったように、やはり大変分かりにくい部分があります。根本コーディネーターがおっしゃいましたように、関連性のあるものをそこに全部入れていったのだと思いますけれども、例えば文化・生涯学習、多文

化共生のことが出ていますね、認め合うっていう。他の関連性みたいなものを見ていきますと、ほんのちょっと関連があってもそこに入っているから、多文化共生も文化とか生涯学習、海外の文化ということも考えられるのかなと思いました。そういう意味も含めてちょっと整理をしていただくと分かりやすいと、そういう思いがしております。

(根本学部長)

ありがとうございます。これは本当に難しいですね。縦割りにどうしてもなってしまうのですが、かといってあれもこれも関係がありますと書けば書くほど余計わからなくなってしまうので、何とかこれを頑張って、次に皆さんで見るときには、もう少し整理整頓されてメッセージが伝わるようなものを事務局と一緒に相談して工夫してみたいと思いますけれども、おっしゃるご主旨は皆さんにご了解いただけていると思います。多分線を全部繋ぐとすごく複雑な図形になってしまいます。ただおそらく線の太い細いがあるはずですが、だからどうしても物事をこう順序立てて説明していくためには、項目に分けなくてはいけないのですが、どこかで割り切らなくてはいけないというのと、あと太い線と細い線で繋がっていますよというのが読み取れるような書き方があると思います。工夫の余地があると思います。あといかがでしょうか。

(酒井委員)

今議論があったところと少し違うのですが、都市経営の考え方の中で、4番で変化を恐れない、自立したまちづくりということで、東日本大震災とか、津波の事が書いてあって、まちづくりの中でそういったものを解決するというのがあるのですが、次のページ、5番で広域連携によるまちづくりというところがあって、そこは三遠南信地区の話が書いてあって、文化であったり、経済であったりという部分を中心になると思うのですが、関西広域連合というものがあって、その中でやられていることは当然、経済であったり、文化であったりということもあるのですが、有事の際、地震が起こった際、どこがどこを助けるかという具体的なことが行われていたりして、例えば、具体例を挙げて恐縮ですが、福井で原発事故があって避難する際には、どの地域の人たちがどこに逃げていくかとうところを、関西広域連合の中で、奈良だったり京都だったりということが受け入れましよう、静岡に当てはめて申し訳ないですが、御前崎で何か問題があった時に、例えば浜松市の地域のどこが受け入れますよというようなことをここに書けということではないのですが、地域で広域的に有事があった際に助け合っていましようというようなことが書かれている方が良いのではないのでしょうか。もし今そういったことがないのであれば、そういったことを目指すとか、そういう気持ちがありますという形でも良いのではないかと感じて読ませていただいていたのですが、いかがかなと思います。

(根本学部長)

ありがとうございます。都市経営のところなので一言、私もこれを事前に読んだので、意見ということで話を聞いていただければと思います。一つ目の市民協働のところですが、これは全体的なことがここに書かれているのですが、そういう大きな考え方として、21世紀の少子高齢社会は分業化、専門化ということが進み過ぎるとかえって非効率になるということがあると思います。市民参画と協働というのは、プロに仕事をお任せして、市民は税金だけ払っていただければ良いということではないということだと思います。そういう意味では協働というのは、都市の経営資源、人、モノ、お金、それから情報ですね。情報については、ICTは書いてあるのですが、

ノウハウとかナレッジと言われる、ナレッジマネジメントというような地域を経営する経営資源は皆で協働して出し合ってやるということを一言入れられたら良いなと思いました。それから2番目の持続可能ですが、環境的な視点がかなり強く入っています。ただサステナブルシティというのはエコロジカルなことだけではなくて、経済的なこともあります。だから持続可能というのは経済というのがちゃんと循環し、ビジネスがまわっていくというのもサステナブルな社会、都市経営だと思うので、そういう意味では環境が維持されるというだけではなくて、昨今の言葉で言うとコミュニティビジネスとか、ソーシャルビジネスとか、いわゆる社会課題をビジネス化してちゃんと経済がまわるということを入れてくれたら良いなと思いました。それから3番目の創造都市のところですが、これも先ほど言いました2と絡むのですが、やはりこの創造産業として発展していく展望というのをもっと言っているのではないかなと思います。ものづくりのまちとして発展してきたという歴史がありますので、その歴史を更にバージョンアップして、クリエイティブなものづくり、それはちゃんとビジネス化して、産業化して、未来に繋がるという記述になったら良いなと思います。4番目と5番目は今、委員からご指摘がありましたように、一つの浜松、合併して大きな自治体になりましたけど、孤立してやっていける訳ではないので、そういう意味では色々な意味での多様なネットワーク、連携、支え合いというニュアンスがあるのかなと思ひまして、特に5番については三遠南信の話が沢山載っているのですが、これは本当に明確に市の政策として、三遠南信一本で行く、というならそれで良いのですが、もうちょっと多様性のある書き方もあるのではないかなというのが個人的な意見です。

(外山委員)

今の話に関連するのですが、都市経営の考え方の見出し5つの中の4つとも、最後は全部市民協働によるまちづくりというような形になっていて、一般の方が見た時、まちづくりって多分中心市街地のことをイメージさせると思っていて、先ほどおっしゃったように、持続可能な環境経済、そういう見出しなら分かりやすいのですが、4つとも全部まちづくりとなっているので、ここは見出しの付け方をもう少し絞って分かりやすい単語にした方が良いかなと思いました。

(根本学部長)

平仮名のまちづくりという言葉は非常に便利ですのでつつい使ってしまう。大事なことを指摘していただきました。あとはいかがでしょうか。

(杉山委員)

単語の話に関してなのですが、個人的に基本計画とか基本構想は分かりやすい、私でもサクサク読めるような資料になれば良いかなと思っていて、そのような視点でみると、やはり行政用語というか、行政の人にしか分からないだろうなというような用語がすごく沢山入っていると感じています。8月にパブリックコメントがある時に、市民の皆さんにこの資料を読んでいただけたら、どの言葉が分かりにくいですかという意見を集めたり、丸を付けてもらったりして、そうすれば行政の人も、この言葉はちょっと行政の人の考えと市民の考えとの認識のずれがあるのかなということが見えてくると思うので、その言葉のずれを調整すれば、もっと分かりやすいのかなと思いました。

(根本学部長)      ありがとうございます。おっしゃるようになるべく分かりやすい、誤解の少ない言葉に揃えていくのが良いと思いますし、どうしても使わざるを得ないという時には、格好は悪いですが、用語解説集みたいなものを付けるというのを他所の自治体でもよくやっていると思います。あといかがでしょうか。

(村田亜委員)      今、市民に分かりやすい言葉というのがあったので、質問なのですが、この推進プランというものは広く一般に公開するものですか。

(事務局)           はい、広く一般に公開するものです。

(根本学部長)      普通こういうものは基本的には公開の原則で、ただ問題はその方法ですよ。冊子に印刷して配るのか、全市民に配るほどは予算がもったいないかもしれないですね。或いはどこかに置いておくから見なさいといって閲覧するのか。当然今の時代ですからウェブサイトにも載せると思います。でも載せたよというのはダメだと思います。さきほど推進体制で色んなビジョン推進協議会みたいなのがあって良いねと言ったのですが、地域ごとにタウンミーティングを実施して、これをみんなで学ぶということもあって良いと思います。

(村田亜委員)      今勉強会という言葉が出ましたが、浜松市の特性としてとても広い範囲で構成されているので、今は市役所でまちなかに集まってこういう会議をしているのですが、できれば天竜など、地区によって特色がとても違うと思います。だから抱えている問題も違うと思うので、もしそういう勉強会を検討していただく際には、こういう全体会ももちろん必要だと思うのですが、地区によっての勉強会や会議なんかも考えていただけると良いかなと思います。

(根本学部長)      ありがとうございます。それは先ほど申しました推進体制などで検討できると思いますし、このビジョンの目次立ても、今は全市一本で分野別になっていますが、地域別などもあるかも知れないですね。これも自治体によっては地域別計画というふうにしているところもあります。

(田中委員)        相対的に見ますと、この進め方自体、文章が悪いとは言いませんけれども、やはり各個人がどこまで我慢をして、どこまで自分の方も削れるかということをやっていないと、市民というのは全て悪いことは全部行政におんぶに抱っこということが非常に多いですから、やはり受益者負担ということになるのであれば、自分のプラスになることなら削ることも削らないと、全て行政がどうだこうだと言っても始まらないと思います。それからここに出ている、戦後、浜松市がオートバイができた、やれ光産業云々というのは、別に行政がやれと言ったのではなくて、どうやれば飯が食えるかということをやったことであって、当然そういう各個人が飯を食うために何からやるかという気を起こさせないと、行政主導というのは、まあまよめの方向性は行政主導でいいんですが、あとは個々にある気持ちを出さないと、皆きれいごとで終わってしまって、素晴らしい文章でございませぬ、しかしながら30年後は何も残りませんという、私らも死んでも死にきれないから、やはり泥臭くても良いので、何かできちんと残さないと30

年後の未来はない。戦後でも、世界に冠たるオートバイだって別に行政がオートバイをやれと言った訳でも何でもなく、それぞれ自分たちが、どうやって飯を食っていくかというので、それが現在に至っている。光産業だってホトニクスさんは自分らが汗水たらしてやったことが今は世界的な産業になっているという訳ですから、各個人がどこまで我慢していくかを自分たちで考えないと、この書類で一定の方向性が出ています。それに競合していなないと、全部レベルが違います、ドングリの背比べだけではないですから、そこらに変化を持たせないという意味がないですよ。例えば持続可能なまちづくりというのも、例えばマグロを例にとれば、マグロは止まれば死んでしまいます。食べられるまで動き回っている。行政の動き方も同じだと思います、それが長い50年や100年後のまちづくりに繋がると思います。

(鈴木市長) まさに今、田中さんがおっしゃったことが市民協働の神髄ですね。

(根本学部長) 確か最初の方でご指摘があったかと思うのですが、主語がないですね、今日の資料は。だからビジョンはあります、それを実現するために都市経営という考え方でやります。ああそうですかと。ではその経営の主体は何かというのと全部行政がやるわけではないですね。どうしても行政の事務局が案を作ると、行政計画が骨組みになるので、全部行政がやってくれるのというふうに見えますが、そうではないということをしっかり書く必要がありますね。だから都市経営を持ち出した段階でその経営の担い手は誰なのかと、市民であり、企業であり、NPOも入りますし、当然、行政も入ります。行政が全部経営するのではなく、市民や企業が伸び伸びと活躍できるような環境整備をするのが行政の役割だと思います。その役割分担をしてやっていくのですよということ①から⑤の前に都市経営の考え方として書く必要があるかも知れないですね。その中で行政がやるのはこれですよ、というような仕分けをしていただこうと思います。

(松本委員) この資料は全然絵がないですね。文章ばかりなので、見開きのところにこれの全体が一目で分かるような絵を入れて、その中に先生が言われたようなこの部分は市民協働でやりますよ、ここはこうですよというものをに入れていく。例えば最初のところは1ダースの未来というのがくるはずですよ。その後には都市経営の考え方というのがきて、それから分野別計画がきて、そしてそれを実際には実行していくところがあるはずですよ。そういうものを絵で見て、まずこの文章を読む前に全体の構想が分かるようなものがあって、協働でやっていくこと、市役所がやること等が最初にポンと分かるようなものがあると分かりやすいのではないかと思います。

(根本学部長) はい、そうですね。模式図が是非ほしいですね。ビジュアル的な。デザインの力を活用してほしいと思います。

(須藤委員) はい、私もずっと気になって、もやもやとしたものがあったのですが、今の松本さんのご意見とか、根本コーディネーターの先ほどの説明ですっきりしたのですが、市民協働という言葉が非常に沢山使われていて、市民に期待される部分が非常に大きいというふうに感じています。それは大変に皆が責任を持って行動できるということで素晴らしいと思うのですが、多分私、初回か2回目の時に言ったと思いますが、今は高齢者も女性も障

がいのある方も皆働きなさいと言われてるのがこれからの時代だと受け止めています。そうすると皆働いて市民協働、市民活動をしていくのは一体誰なのだろうかという疑問がずっと解決されないままにきていたのですが、先ほどの根本コーディネーターの話では、行政の責任、市民の責任、企業の責任、そんなふうにして明確に文章に表していただければ、企業の責任は非常に大きなものがあると思います。企業も市民として、働く人たちの生活を保障するだけではなくて、働く人たちの市民活動も支援するような企業のあり方を考えていただきたいと思います。ですから先ほどのように企業の役割というの、これまで出てきているのは、やはり一般市民と行政の役割が主に出てきているのですが、企業についての責任というの、明確に書き表して理解を求めていくということをやっていただきたいと思います。

(根本学部長) はいありがとうございます。後はいかがでしょうか。

(村田昌委員) どういう分かりやすい資料を作るのかということが、今お話しされましたけれども、その前にも根本先生が、どう届けるのかという話をされていまして、分かりやすい資料を作って配るといのは大事なのですが、やはり読まされるというか見せられるというよりも、自分の意思で読むというのがすごく大事だと思います。そういう意味ではこのデザイン会議、という仕掛けというのは、少なくとも一般の人に、専門委員もいらっしやいますけれども、一般委員の人は論文を書いて応募して、面接をして、会議に呼んでいただいてということで、おそらく一年前は市の行政にあまり関心がなかった人たち、特に一般市民ですね、が非常に関心を持ちました。きょうも記者の人が来ていますが、新聞で見ても浜松市の行政の記事を今までよりも真剣に読むようになってきたのではないかなと思います。このようなことが関心を持たせる仕掛けとして非常に大事で、先ほど勉強会やミーティングという話も、広い公民館の壇上で市の人が話して、動員も含めて100人くらいが聞いているだけというような感じではなくて、小さなワークショップを開くとか、そこに予算がどれくらいかかるかわからないのですが、それは工夫をしていただくとして、そういう伝える企画というのは、この未来デザイン会議のような面白く、我々は参加していて面白いので、こういう発想で色んなことをやっていけば、自ずと自分事として情報をチェックするでしょうし、誤解を感じれば聞くこともできる、答を返してもらえることも分かった、とその環境を作っていくことが非常に大事だと思いましたので、これが終わってからもこのメンバーだけじゃなく、更に拡充してこんな輪を作っていただけると良いなと思いました。

(根本学部長) はい、他はいかがでしょうか。

(外山委員) 今村田委員の意見にアイデアとして思ったのですが、これだけ良い行楽日和の晴天の中、会議室にこもって、晴れのまち浜松が会議室にこもって会議をするというのを逆手にとって、例えばですけど、晴れのまち浜松は、市の未来を考える会議を浜松城公園で晴天の中開催するというだけでも、ちょっとした記事になるだろうし、ネットでもそういうニュースというのは流れやすいと思います。それが開催しやすいかしくいかという問題は当然実行時点であると思いますので、話題になるような仕掛けでそれに乗じて晴れのまちを一緒にアピールしていくような、伝えていく場とい

う手法にも一つ工夫が欲しいと思いました。

(酒井委員)

是非飛龍祭りでそういうことをやっていただきたい。半分冗談かも知れないですけど、ずっと会議は浜松市内の市役所で、色んな考え方もあったり、コストの面もあったかなと思うのですが、区内色んなところがあって、様々な区でそういったもの、場所を見ながら色んな所へ行って会議をやった方が良かったのかなと今になってみれば、そんなことも思ったりします。先ほど外山委員がおっしゃったように、色んなイベント、北区であれば姫様道中であったり、中区であれば家康楽市であったり、そういう色んなイベントがある中でそういうのも仕掛けとして、市民の皆さんに知っていただくのには面白いのではないかと思います。

(根本学部長)

本当はもっと時間と予算があれば、ご提案をどんどん活かしてもっとできたら良かったと思いますが、今からでもできることがあるので、また一緒に考えていきたいと思います。また、幾つか出たのは推進体制についてのところですね。そこはとても大事なところなのでまだまだ深めていきたいと思いますが、一旦推進体制のところはそういった多様な形で市民の皆さんが受け身ではなくて、前向きにこのビジョンを受け止めて実現していくような仕組みづくりをしましょうということはよろしいですね。ではそれ以外のところでご意見ありましたらいかがでしょうか。

(村田昌委員)

質問ですが、例えば分野別計画の14ページと15ページの、環境・エネルギー、これは私も比較的関わっているテーマですので、考えたことと照らし合わせてみますと、まず最初に【浜松市未来ビジョンの実現に向けた将来の理想の姿】とあって、その下に10年後の姿があって、実現に向けての文章があって、ずっとある中でこの辺りはすべてその通りと、斬新なアイデアではないけれども、間違っていないことが書かれているなというふうな印象を受けます。そして次のページ、政策体系の政策の柱も前のページの言葉がそのまま載っているだけでして、その下の基本政策というのも、それを二つに分けていますね。だからここまでは完成されていると思うのですが、政策が上が5つあって、下が3つありますけれども、要するにこういうことをやっていきますよ、例えば一番上に「環境に配慮したくらしの定着と自然と共生するまちづくり」という言葉自体はこれまた非の打ちどころのない言葉だと思います。問題はそのためにな何をするかというのが具体的な政策だと思うのですが、それは未来デザイン会議で議論するテーマではないのですか。ここまでの表の完成、この2ページを完成させるまでが未来デザイン会議の私どもに意見を求められていることなのか、環境に配慮したくらしの定着と自然と共生するまちづくりのために何をしたらよいかということまでが議論になるのか、それをすると相当な時間になってしまうと思うのですが、専門委員の皆さんはそのアイデアをお持ちの方だと思います。私も市民委員ではありますが、自分の知見を活かすとしたらそういうところに意見を出せるかなと思うのですが、それがちょっと迷いながら、自分のところに関してはこのディテールまで言いたいけれども、知らない所に関しては何となく全体の構成と言葉遣いに意見を言ってしまうというふうになってしまう。そこで自分の中で整理できていない。質問でも意見でもなくて、感想です。

(根本学部長)

一点事務局さんでお話しただければ、このテーブルでどこまで議論



していくのか、ということと今日はサンプルが載っている状態だと思いますけれども、この推進プランはどこまで具体的ディテールが書きこまれるのか、ちょっと見直しをお話しいただけますか。

(事務局)

今のご質問の部分で言いますと、確かに一番重要な部分が抜けていて、非常に分かりにくくなっていると思うのですが、基本政策の実現に向けた取り組みというところがまだ◆と○になっているような状況があるかと思います。一番下の基本政策のところというのは、行政側が責任を持ってやっていって、それを実際に10年の姿に向かって行く内容になっているかどうかというところを、この基本政策でより分かりやすくまとめていくという形になろうかとは思いますが、ここのデザイン会議の中で皆さんにお願いしたい部分というのは、まず基本構想から実際の10年後の姿というところの実現に向けてのところまでが、しっかり連動していると言いましょうか、そういったところを是非見ていただきたいという思いは持っております。ですので、個別具体の政策については、これは行政側で責任を持ってやっていくことになるのですが、ただできるだけこういった中でご意見はどんどん言っていただければと思っております。

(根本学部長)

はいありがとうございます。ですから大きくは全体像、それから全体像が分野別や地域特性を活かした形に繋がっていくところまでが我々の責務のようです。個々の具体的な施策については、例えば環境エネルギーなら環境エネルギーの別の市民参加の委員会とか審議会等もあろうかと思いません。じゃあ我々は折角参加して、細部に踏み込んだ意見は言えないのかと言ったら、それも違うと思いません。ですから各々の委員の皆さんの得意な分野がおありと思えますから、それに言及していただくことは一向に構わないと思いません。一つ気になったのは、ビジョンは行政だけではなくて、市民、企業すべてを念頭に置いたビジョンになっています。それが段々ブレイクダウンしていくと、行政が責任を持って実施できる計画案というのが骨子になるわけですね。これは非常に難しいのですが、行政が主語になってやること以外に、市民や企業が主体的にやるのだけでも、その環境整備は行政がやるというように色んな段階がありますが、下手に文章に書いてしまうと、これは行政評価ということで批判されてしまうので、できもしないことは書けないということもあって、何かお行儀の良いことしか書いてないねとなってしまふ恐れがあります。だからそこは書き方を工夫して、行政が責任持ってやるのはこれとこれとこれ、市民の皆さん企業の皆さんNPOの皆さんが頑張るのを行政が支援してやるのはこれとこれとこれですとか、そこを書き分けていただければよいのではないかと思います。そういう意味では後者の部分は委員の皆さんがご自身の専門とか経験を生かして、例えばこんなことがあるよと、どんどん発言していただいて良いかと思います。

(松尾委員)

どうしても全体的に今までの議論と同じと言えば同じかも知れませんが、おぼろげなものになっていくというか、ディテールが創出できないまま、最終的になってきているというのがあると思えます。その中であって今、根本先生がおっしゃったように、区分けをして行政がやるべきことと推進すべきことが見えるようにということがあるかと思うのですが、これを読ませていただくと多くのことが今までの継続的なこと、当たり前と言えば当たり前ですが、継続的なことと発展的なトライ、両方存在すると

思います。未来ビジョンですから、是非、継続的なものは継続的なものとしてあるのですが、やっぱり行政として新しい未来を作るためにトライするところを工夫して是非入れ込んでいただければと思います。

(根本学部長)

ありがとうございます。これも他所の話を余りしてはいけないのですが、こういう分野別の計画というのは、市民の生活を支える屋台骨なので揺らいでもらっては困るし、簡単に失敗してもらっては困るのですが、新機軸をどこで出すか、それで定常的にやっていくシビルミニマムはきっちり押えた上で、例えば5大プロジェクトとか、3つの推進プロジェクトとかいう別建てで書くという書き方もあります。或いは分野別の中にチャレンジプロジェクトと定常的にやるプロジェクトを分けて書くというやり方もあります。だから何らかの形で見えるように工夫をしましょう。

(村田亜委員)

是非チャレンジプロジェクトの中に入れていただきたいと思うものがあるのですが、子育てと教育の中で10年後の姿の実現に向けての中で、子育てということと教育ということと、もう一つが働く母親とかの支援という3つの要素が入っているかと思うのですが、実現に向けた取り組みの方に行きますと、子どもの育ち、若者の自立、未来創造への人づくりということになると思うんですが、ここに就労している母親の育児支援とか、ワーク・ライフ・バランス的なことが政策の中には出て来ていないので、第1回の時に、今一番少子化というのが課題であるということをお大きく取り上げていたと思うのですが、女性が浜松に住みたくないというふうになってしまう状況ですと、それこそ人口の減少が促進されてしまうということがあり、実際私の友人の中にも浜松で保育園に入れなくて他市に移ったという人がおります。今、本当に保育園に入れなくて、働くのは浜松にしても、周りの都市に住みましょうということになると、そこで子どもが育ち、定住するということになってしまうという可能性がありますので、ここは大きな課題の一つとして、今までやってきたことの中ではないですけども、これからの未来の課題として是非強力に取り組んでいただければ良いなと思っております。

(根本学部長)

はいありがとうございます。引き続きご意見ご提案いかがでしょうか。

(杉山委員)

行政と市民の役割分担という話がありましたが、この計画を見ていると、何々します、何々しますとあると、ああ行政がやってくれると思ってしまって、市民が自分はこれならできそうかなと思える目標を、計画の案に載せるほどのものなのかなとは思っているのですが、でも一人ひとりができること、一人ですること、10人ならできること、そういうものを目標として入れてあると、これを読んだ時にこれならできそうだからこの分野でこれをやってみようかなというふうに市民が思える仕掛けづくり、例えば17ページの生涯にわたる健康づくりだったら、市民は一日1万歩歩くように努力しましょうというような目標が書いてあれば、これならできそうかなと思えると思います。個人のレベルで実行できる目標があると、政策に対してもっと一人ひとりが積極的に取り組めるかなと思います。

(根本学部長)

ありがとうございます。どう普及してこれを受け止めるかというのがありました。これも実際他所の自治体でやったことがあります。パンフレッ

ト、つまり分厚い冊子を全市民に配る訳ではないので、縮刷版みたいなものを配ることが多いです。その時に一方的に「全部決まったから、説明するから読みなさい」、というパンフレットではなく、市民が埋めるコーナーというのをわざと作っておいて、そこに例えば1万歩歩くということを書き込めるような、だからタウンミーティングでも勉強会でも良いですが、行政がパンフレットを配る時に最後の一笔を市民が書き込んでそれで完成するというようなこと。当然行政が責任をもってやることは当然ある、それに市民が主体的に参画してやるというインタラクティブなパンフレットを作って普及啓発に使うというやり方はあると思います。

(松本委員)

段々完成してくると何か総花的になってきて、最初我々がやってきた議論というのは、浜松というのは他の政令指定都市と違うのではないかと、全産業、林業から農業漁業全てあって、漁業が一番小さいくらいで、一つの国家ができるようなそういう特色を持っているのではないかと最初、そういう話をしていましたが、段々総花的で、これをやれば将来30年後の浜松市の人口減少が止められ、他の都市と比べてやはり浜松は他の都市と違うということが出てくるだろうかと不安になってきます。やはりこれはこれで良いですが浜松市は他と違うというものがあって、そういう大きな目標や方針があって、それでこういうものがありますよということにしないと、昔と比べると総花的になってしまっているのではないかなという感じがします。

(根本学部長)

ありがとうございます。そこは本当に痛し痒しということなのですが、ビジョンとプランですから、ビジョンのところはそれなりに浜松ではということになっていると思います。先程から出ているようにビジョンと12の未来像とこのプランがどういうふうになっているのかということと、どうしても総花的になってしまうのですが、このプランの中でさきほど言った5本の推進の柱とか、戦略プロジェクトはこれだとか、これこそが浜松らしい施策だとかという濃淡をつける、そういうことでいけると思います。

(松本委員)

是非濃淡をつけてほしいです。特化してほしいです。そうでないとこれを読んだ時に他の市が作ったって同じという気がしてきます。

(根本学部長)

ではよろしければご発言いただいていない委員がおられましたら、是非どんな些細なことでも感想で良いので一言いただければと思います。

(山田委員)

自分の話になってしまうのですが、私は今、藤枝市の「藤枝おんぱく」という地域起こしのイベントに関わっていて、イベントを通して藤枝市が好きになっていて、浜松市ももちろん何年も住んで来て、浜松のために何ができるかということも考えるのですが、藤枝のために何ができるのかを最近考え始めていて、そのきっかけになったのは藤枝が好きになったということがまず大きかったので、こういったビジョンとしてこれから担っていく人たちにどうやって浜松を好きになってもらうかということも考えてもらえると、もっと未来の話になっていくのではないかなと思いました。

(根本学部長)

もっと早く言ってくださいよ、というくらい大事なお話でした。私、

「おんぱく」の仕掛け人もやっているのですが、大事なことは市民や学生さんが主体的に参加できる舞台を作ること。ここまで行政の役割、それで参加すると好きになったりやり甲斐が出たりします。これは是非浜松市も取り組んでいただければと思います。

(石倉委員)

これを全体的に見てみて、皆さん言われたように、どこにでもあるような内容になっているので、これは途中段階なのであまり発言はしなかったのですが、これをもっと変えるんですね、明確に。その時に色々言うべきかなと思っていて、今、取りあえずさきほども言われたように学生や市民が主体的に活動できる場の提供という意味では全然入っていないし、そういうのを意識しなかったのではないかなと思えるくらい、しますとかですとか書いてあって、私はどちらかという中山間地域で色々活動してまして、サークルも立ち上げました。一番感じていることは学生なので資金面の援助が全然なくて、移動とかで困っていて、そういう声はこういう計画案だと全体のことになってしまうので外されるかなと思って発言しなかったのですが、しかもそういう内容は最初の段階から言うべきであって、私は最初の頃はこういう活動をやっていなくて言えませんでした。そのため発言を控えていました。

(根本学部長)

控えなくていいので、どんどん発言しましょう。大事な論点です。たまたま2つ若い方からの発言が続きましたけれども、今日の案で大きく欠落しているのが、市民や企業団体が主体的に参画できるような施策が見えていないということですね。先程からずっと繰り返して出ているのが都市経営の推進体制の問題です。一つ一つのプロジェクト、個々のものをここで詰めていくということはしません。そういう活動をしていて悩みがあるというのはどんどん発言していただいて、であればそういう中間支援の窓口をやるべきではないとか、行政が参加する施策としてそこを助ける道はあると思います。だからどんどんこれは困るとかお金が足りないといった経験を言ってもらって良いと思います。

(榊原委員)

都市経営という単語が出ていまして、私も企業に所属する労働者ですけど、必ず中期経営計画だとか年度計画だとかそういったのが出されている中で、必ずこういうお題目というか、最初に文章があって企業の場合はその後にスケジュールと数値目標が必ず入っています。これを読んでいてそれがないというところをずっと疑問に思っていて、ただそこは企業と行政との違いがあるのかと思って聞いていたのですが、何となく進めますだとかこうしますというよりも、市民にどんなベネフィットを提示できるのか、「こうなります、住んでいればこんな良いことがあります」、というところをもう少し具体的に示してもらえれば、受け手としては、例えば企業の場合は収入がこれだけ上がって、費用はこれだけ抑えて、収益がこれだけになります。そうすると皆の収入が上がりますという絵を描くと思います。同じようなことで市民がこれだけ良い思いができるというところをビジョンとして書いてほしいと思います。

(根本学部長)

ありがとうございます。実は最後の方に重要な意見出てくるのですが、これは行政計画だからそれを考えなくていいということはありません。色んなところでスケジュール、数値目標100%はできないですけど、浜松のプランだってスケジュール例えば10年だったら、5年以内と次の5年と

か、書けますよね。それから数値目標だって待機児童ゼロとか書けるところは書けるはずですが。今日は本当にサンプルが付いているだけですが、もしこれをまとめるならば、そういう時間的な達成までの道筋と、できる限り数値目標を上げたらいかがですかと提案できると思います。あとはいかがでしょうか。

(酒井委員) 質問ですが、一次推進プランを出されてその後マニフェストに更に展開していく形という認識で良いのでしょうか。

(根本学部長) それでは事務局さんの方で、全体像をお話いただけますか。ビジョンがあってプランがあって、実施計画を作るわけですよね。

(事務局) まず10年間の計画を作った後は、これから実施計画ということで1年毎必ずそういった進捗管理をしていくようなイメージになって参りますので、実施の計画は確実に作って参ります。

(根本学部長) 大体こういう計画は3段階です。ビジョンと推進プランと実施計画ですね。今のお話だと毎年のローリングということですから、この推進計画はかなり具体性を持ったものを整備する必要があると思います。ですからできる限り数値目標だったり、ロードマップだったり、盛り込めるものは盛り込むという方向は是非提案したいと思います。

(鈴木市長) もちろん行政が仕事をしていく場合も、そういった数値目標や、スケジュール、これがないと仕事にならないですから、きちんと作ります。私も大体任期の前にはマニフェストを作ります。それは政策目標もきちっと項目をあげて、数値目標も或いは財政的な裏付けもできるものは全部書いて、それを各担当の皆さんに4年間でどういうふう to 実施するか、1年目はここまで、2年目はここまでやります、その財政的な裏付けはこうですというものを計画としてマニフェストの推進計画を作ってもらって、それを1年毎の戦略プランを作り、それが予算の裏付けにもなります。そこに落とし込んでその数値目標を達成するために実行するわけですね。それで一年終わると見直し、修正し、達成したものはそこで達成という、基本的に企業でやっているようなサイクルは行政でも今きちっとやられています、今ある意味では非常に長期的な指針みたいなものを作っている訳ですから、中々その中で具体的なこれをこういうふう to 数値目標を掲げるというのは難しいのですが、これを実行していく時にはそこを作っていないといけない。例えば環境の中でゴミの削減と一言で書いてありますが、これは行政ができる訳ではありません。一人ひとりの市民の皆さんが協力していただかないとゴミの削減はできません。ではどうやってやるのかというところでこちらから色々アイデアを提供したりですとか、分別をこうするとこうなります、これだけこういうふう to 取り組んでもらえれば一人当たりゴミをこれくらい削減できますよという提案をしたりします。それが全体としての浜松のごみの削減に繋がって、ゴミのプラントを作らなくて良くなったとか、焼却費用がこれだけ削減されてその分はもっと前向きな施策に予算をまわすことができましたと、そういうことは当然やっていかないとはいけません。その前段階のかなり長期的な指針を作っている、そんな状況だと思います。

(根本学部長) 市長さんから丁寧に説明して頂き、ありがとうございます。時間のこともありますので、折角ですからあと一言これだけはこのことがあれば、いかがでしょうか。

(松尾委員) 先程も言わせていただきましたが、どうしても書類にしてしまうと大人しいものになってしまうと思いますけれども、是非やらまいかということで頑張っていたいて、やらまいかの文章が出てくると良いなと思います。よろしくをお願いします。

(根本学部長) 最後またご提案ですけれど、限られた時間で意を尽くせないところもありますし、発言を控えたという意見もあってとても残念なので、是非文章なりアイデアを、そしてやらまいかの戦略はこれだというような提案を事務局にお寄せいただいて、次の検討に活かせるように。また事務局さんにもお願いしたいと思いますし、委員の皆様にもお願いしたいと思います。それでは予定した議題はここまでということでございますが市長さんいかがですか。

(鈴木市長) ありがとうございます。是非、多分私もこうやって見ていると、いつもの総合計画だなという感じになってきています。痛し痒しのところがありまして、市というのはやはりあらゆる市民生活を支えているという立場なものですから、私なんかよく叱られるのは、色々な所へ施政報告へ行って重要プロジェクトだけ言うと、お前今日は教育の話が何もなかったじゃないか、とか農業の話の一つもしてないぞとか、言われます。全部言い出すと一晩かかるとよく言うのですが、皆さんの興味関心の分野も違うだろうし、おそらくこれでメンバーを入れ替えてご意見を聞くとまた違う関心を持っている人は違う分野の話が出てくるでしょうし、そういうところで段々集約していくとこうなってくるのかなという感じはします。是非その中でこれだけは尖がったプロジェクトを入れてくれという提案、実は市も沢山の職員がいますが、恐らくこれに関わっているのは、ほんの数人の企画調整部の職員が原稿を作っていますので、当然、一人ひとりのクリエイティブな能力は限界がありますので、やはり衆知を集めていかないといけませんので、是非具体的にこれを入れ込んでくれとか、こういうふうに尖がったプロジェクトをやってくれというような提案があれば是非出していきたいと思います。

(根本学部長) では進行を事務局にお返しします。

## 6 閉会

(事務局) 根本学部長、ありがとうございました。委員の皆様も活発なご議論をありがとうございました。これをもちまして、第5回浜松市未来デザイン会議を閉会します。なお、第6回は平成26年7月26日土曜日、午後2時から、会場は同じ全員協議会室にて開催しますので、ご案内します。それでは、お気をつけてお帰り下さい。

浜企企第103号  
平成26年7月26日

浜松市未来デザイン会議 委員 各位

浜松市長 鈴木 康友

### 第7回浜松市未来デザイン会議の開催について

時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

第7回浜松市未来デザイン会議を下記のとおり実施いたしますので、ご出席をお願いいたします。

#### 記

- 1 日時：平成26年10月25日(土) 午後3時から2時間程度
- 2 場所：浜松市役所本館8階 全員協議会室
- 3 備考
  - (1)市役所の休庁日ですので、時間外入口から入館をお願いします。
  - (2)車で来庁の場合、市役所駐車場をご利用いただけます。その際には、駐車券を会場までお持ちください。無料処理を行います。
  - (3)会議には、報道機関、市民による傍聴もあります。ご了承ください。
  - (4)欠席の場合は、以下の担当までご連絡をお願いいたします。
  - (5)当日、託児等何らかの対応が必要な場合は、事前にご連絡をお願いいたします。
  - (6)本市では、省エネルギーの推進のため、10月31日まで職員の軽装を実施しておりますので、会議への出席にあたりましては、軽装でお越しくください。

担当：浜松市企画調整部企画課 澤田、加藤

電話：053(457)2241

FAX：053(457)2248

E-mail：kikaku@city.hamamatsu.shizuoka.jp